

学 生 便 覧

2025 年 度

広島大学大学院統合生命科学研究科

学 年 暦

期	区 分	期	間
前期	春 季 休 業	4 月 1 日～	4 月 7 日
	授 業 期 間	4 月 8 日～	8 月 1 0 日
	夏 季 休 業	8 月 1 1 日～	9 月 3 0 日
後期	授 業 期 間	1 0 月 2 日～	1 2 月 2 5 日
	創 立 記 念 日	1 1 月 5 日	
	冬 季 休 業	1 2 月 2 6 日～	翌年 1 月 5 日
	授 業 期 間	1 月 6 日～	2 月 1 5 日
	学 年 末 休 業	2 月 1 6 日～	3 月 3 1 日

(注) 前期の前半を第 1 ターム、後半を第 2 ターム、後期の前半を第 3 ターム、後半を第 4 タームとします。

なお、学期区分は、広島大学通則に基づく期間であり、授業スケジュールとは異なる場合があります。授業スケジュールについては、「学生情報の森もみじ」に掲載されている各年度の学年暦で確認してください。

授業時間

時 限	時 刻
1	8 : 4 5 ～ 9 : 3 0
2	9 : 3 0 ～ 1 0 : 1 5
3	1 0 : 3 0 ～ 1 1 : 1 5
4	1 1 : 1 5 ～ 1 2 : 0 0
5	1 2 : 5 0 ～ 1 3 : 3 5
6	1 3 : 3 5 ～ 1 4 : 2 0
7	1 4 : 3 5 ～ 1 5 : 2 0
8	1 5 : 2 0 ～ 1 6 : 0 5
9	1 6 : 2 0 ～ 1 7 : 0 5
10	1 7 : 0 5 ～ 1 7 : 5 0
11	1 8 : 0 0 ～ 1 8 : 4 5
12	1 8 : 4 5 ～ 1 9 : 3 0
13	1 9 : 4 0 ～ 2 0 : 2 5
14	2 0 : 2 5 ～ 2 1 : 1 0

目 次

広島大学基本理念	
統合生命科学研究科の設立理念	
統合生命科学研究科の養成する人材	
広島大学憲章	
広島大学行動規範	
学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	
教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）	
広島大学大学院統合生命科学研究科学位授与の判定基準及び学位論文の評価基準	
広島大学大学院統合生命科学研究科学位名の基準について	

I 教務関係

博士課程前期・後期（共通）

1 研究科細則	1
2 履修手続について	6
3 研究倫理教育について	7
4 大学院スキルアップ科目について	9
5 大学院共通科目について	10
6 教育職員免許状の取得について	12

博士課程前期（修士）

7 授業科目と履修方法について	13
8 履修上の注意	20
9 修士論文の審査と最終試験について	22
10 修士論文等作成から提出までの日程及び手続きについて	23

関係様式集

博士課程後期（博士）

11 授業科目と履修方法について	41
12 履修上の注意	48
13 グローバルキャリアデザインセンター提供プログラム (HIRAKU 実践プログラム)	51
14 学位規則（研究科内規）	52
15 博士論文等作成から提出までの日程及び手続きについて	55

関係様式集

II 関係規則

○ 広島大学通則	73
○ 広島大学大学院規則	92
○ 広島大学大学院特定プログラム規則	112
○ 広島大学大学院特定プログラム履修細則	114
○ 広島大学大学院共通科目履修規則	117
○ 広島大学大学院スキルアップ科目に関する細則	119
○ 広島大学学生交流規則	121
○ 広島大学学位規則	126
○ 広島大学授業料等免除及び猶予規則	132
○ 広島大学長期履修の取扱いに関する細則	138
○ 広島大学既修得単位等の認定に関する細則	140
○ 広島大学科目等履修生規則	144
○ 広島大学学生表彰規則	149
○ 広島大学学生表彰基準	151
○ 広島大学学生懲戒規則	153
○ 広島大学エクセレントスチューデントスカラシップ規則	159
○ 広島大学学生生活に関する規則	161
○ 広島大学学生証取扱細則	164
○ 広島大学障害学生の修学等の支援に関する規則	168
○ 身体等に障害のある学生に対する試験等における特別措置について(申合せ)	170
○ 社会貢献活動に従事したことに関する証明書発行要項	172
○ 期末試験等における不正行為の取扱いについて	176
○ 広島大学研究生規則	177
○ 広島大学外国人研究生規則	181
○ 広島大学ハラスメント等の防止等に関する規則	185
○ 広島大学東広島キャンパスの構内交通に関する細則	188
○ 学業に関する評価の取扱いについて	195
○ 成績評価に対する異議申立制度について	198
○ 気象警報の発表、公共交通機関の運休、事件・事故又は弾道ミサイル発射等の 場合における授業等の取扱いについて	200

III その他

・ 統合生命科学研究科教育担当教員一覧 (プログラム別)	203
・ 各プログラム問い合わせ先	210

広島大学の理念

広島大学は、理念5原則の下、国立大学としての使命を果たします。

- 平和を希求する精神
- 新たなる知の創造
- 豊かな人間性を培う教育
- 地域社会・国際社会との共存
- 絶えざる自己変革

○統合生命科学研究科の設立理念

急速に発展し続け、絶えず変革している生物学・生命科学系の研究領域に対応し、他の研究分野とも柔軟に融合・連携しながら、イノベーションを創出する人材を育成するためには、既存の研究科での教育システム、狭い領域での教育カリキュラムのもとで教育するだけでは、不十分になってきた。

ポストゲノム時代に入り、遺伝子・ゲノムから生物機能、生態、地球環境、数理生命、医科学まで、そして、それらの基礎から応用まで、幅広い分野に対する理解と深い専門性を身につけた人材が望まれている。すなわち、他領域の学問領域にも興味を持ち、分野融合・学際的な研究領域で貢献できる人材、そして、ゲノムサイエンス、脳・神経科学、食料科学、生態・環境科学、医療など、発展・変革し続ける生物学・生命科学系の研究領域に迅速に適応し、グローバル社会における様々な諸課題を解決できる人材の育成が求められるようになった。

このような背景を踏まえて、本学の生物学・生命科学系の専攻を有機的に再編・統合し、多様な社会的要求に応えるための柔軟な教育研究組織として、統合生命科学研究科を創設する。

統合生命科学研究科は、理学、工学、農学、医学の各分野において細分化が進んでいる生物学・生命科学を有機的につなぎ、次代を担う学生が、深掘りするだけでなく俯瞰的な知識と能力を身につけることができる研究科として設置する。この研究科は、広島大学のすべての生物学・生命科学系の学生を同じ理念のもとで教育するために、単一の専攻（統合生命科学専攻）で構成する。

○統合生命科学研究科の養成する人材

発展・変革し続ける生物学・生命科学系の研究領域に迅速に適応し、他の研究分野とも柔軟に融合・連携しながら、イノベーションを創出し、基礎から応用まで、幅広い分野に対する理解と高い専門性を身につけ、グローバル社会における様々な諸課題を解決できる先導的・指導的研究者、高度専門職業人及び教育者を養成する。

広島大学憲章

広島大学は、人類史上初めての原子爆弾が投下された被爆地広島に 1949 年に創設された国立の総合研究大学である。

広島大学は、平和を希求する精神、新たなる知の創造、豊かな人間性を培う教育、地域社会・国際社会との共存、絶えざる自己変革、という理念 5 原則の下、自由で平和な社会を実現し、人類の幸福に貢献することを使命とする。

1. 人権の尊重

広島大学は、そのあらゆる活動において、民族、国籍、宗教、信条、ジェンダー、経済的・社会的地位、障がいの有無などに関わるあらゆる差別やハラスメントを許さず、一人ひとりの人権と人格を尊重し、擁護する。

2. 教育

広島大学は、個々の学生が主体的で柔軟な学びを実践できる環境を構築し、豊かな人間性と幅広い教養、秀でた専門的知識と自ら課題を発見し解決する能力を備え、自由で平和な持続的発展を可能とする社会の実現に貢献する人材を育成する。

3. 研究

広島大学は、研究者の自由な発想に基づく高度で革新的な研究により、深い真理の探究と新たな知の創造に邁進するとともに、その成果を広く社会に提供することにより、地域、国及び国際社会が抱える課題の解決に向けたイノベーションを持続的に創出する。

4. 社会貢献

広島大学は、自らの活動を積極的に公開し、社会に開かれた大学、社会から信頼される大学として、地域や産業界、関係する諸機関とも連携・協働し、教育、研究、医療等の全ての活動を通じて、地域社会及び国際社会に貢献する。

5. 持続可能な社会の実現

広島大学は、持続可能な社会を実現するための世界最高水準の活動に取り組む大学として、貧困や紛争、人権の抑圧、感染症、環境や資源・エネルギー問題など、地球規模の課題に対する先端的な解決策を世界に先駆けて実践する。

広島大学の全構成員及び卒業生・修了生は、各々が矜持を持ち、国民及び世界から期待される役割をたゆまず省察し、コンプライアンスを徹底の上、相互に信頼・尊重しあいながら、その個性と能力を十分に発揮して各々の使命を果たし続ける。

(2021 年 12 月 27 日 制定)

広島大学行動規範

広島大学は、国立の総合研究大学として、自由で平和な社会を実現し、人類の幸福に貢献するという使命を果たすと同時に、その活動に関して高い倫理性と社会に対する透明性を持った十分な説明責任が求められています。社会からのこれらの負託に応えるために、私たち広島大学の全構成員が常に意識し、実行すべき指針として、「広島大学行動規範」を定めます。

1. 人権と多様性の尊重

私たちは、一人ひとりの人権と人格を尊重し、あらゆる差別やハラスメントを許さず、全ての構成員がその個性と能力を十分に発揮できるキャンパスを実現します。

2. 自主性・自律性の堅持

私たちは、社会的規範や倫理、個々の活動に対するインテグリティに十分配慮しつつ、学問の自由や教育・研究の自主性・自律性を堅持し、世界最高水準の教育・研究を実施・発展させ、その成果を社会に還元します。

3. 法令等の遵守

私たちは、広島大学の構成員として活動するにあたり、社会的規範・ルール、関係法令及び学内諸規則を遵守します。

4. 情報の公開・保護

私たちは、社会に対する透明かつ公正な説明責任を果たすため、その活動の内容や結果など本学が保有する情報について適時適切な方法で社会に公開し、その情報の利用にあたっては、高い倫理規範を自らに課すとともに、個人情報の保護を図ります。

5. 情報の管理

私たちは、広島大学の情報資産の価値を把握し、その安全性及び信頼性を確保するために、情報セキュリティ上の脅威を十分に認識し、それぞれの業務に応じて、適切な管理と運用を行います。

6. 経費・資産の適正な管理

私たちは、活動のための経費及び資産の多くが税金その他社会からの支援等によるものであることを常に自覚し、大学の経費及び資産を適正かつ効率的に管理し、使用します。

7. 安全・安心な環境の整備

私たちは、業務の遂行にあたり、安全に対する意識を高め、安全・安心かつ快適な教育、学修、研究及び労働の環境を整備します。

8. 環境問題への取組

私たちは、気候変動や大規模災害、環境汚染や資源・エネルギー問題などの世界的な環境問題に率先して取り組み、安定した環境を将来の世代に引き継ぎます。

(2021年12月27日 制定)

学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【統合生命科学研究科 博士課程前期】

統合生命科学研究科では、生物学・生命科学に関連する研究領域における基礎から応用までの広い分野に対する理解と高い専門性を総合的に身に付け、幅広く深い教養を持って、他の研究分野とも柔軟に融合・連携しながら「持続可能な発展を導く科学」を創出しうる人材を育成する。さらに国際性と社会実装を意識させる教育を行い、現実的な諸課題の問題解決への応用力と実践力を育成する。そのため、本研究科では、以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは所定の基準による研究成果の審査、及び最終試験または博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「修士（理学）、修士（工学）、修士（農学）、修士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

1. 基礎生物学、数理科学、分子科学、生物機能学、環境科学、生物資源科学、生物生産科学、食品科学、生物工学、医科学、及びこれらの関連分野や融合分野における研究能力と専門技術を有している。
2. 上記の研究領域において、深い専門性と共に、基礎から応用までの異分野に対する理解力を有し、それらを融合・連携させる応用力と実践力、課題発見能力を有している。
3. 幅広く深い教養を持って「持続可能な発展を導く科学」の創出への意欲を有している。
4. 科学的論理性と研究倫理の理解、異分野への情報発信能力、国際的・学際的なコミュニケーション能力を有し、学問分野と実社会との関連を意識した研究者、高度専門職業人または教育者として、国内外で専門性と分野融合能力を発揮した活躍が期待できる。

【統合生命科学研究科 博士課程後期】

統合生命科学研究科では、生物学・生命科学に関連する研究領域における基礎から応用までの広い分野に対する理解と高い専門性を総合的に身に付け、幅広く深い教養を持って、他の研究分野とも柔軟に融合・連携しながら「持続可能な発展を導く科学」を創出しうる人材を育成する。さらに国際性と社会実装を意識させる教育を行い、現実的な諸課題への問題提起、解決能力を育成する。そのため、本研究科では、以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「博士（理学）、博士（工学）、博士（農学）、博士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

1. 基礎生物学、数理科学、分子科学、生物機能学、環境科学、生物資源科学、生物生産科学、食品科学、生物工学、医科学、及びこれらの周辺分野や融合分野における高い研究能力と専門技術を有し、学術成果を国内外に発信する能力を有している。
2. 上記の研究領域において、深い専門性と共に、基礎から応用までの学際的視野と社会実践能力を兼ね備え、異分野を融合・連携させた課題発見能力及び問題解決能力を有している。
3. 幅広く深い教養を持って「持続可能な発展を導く科学」の創出への意欲を有している。
4. 科学的論理性と高潔な研究者倫理、異分野への情報発信能力、国際的・学際的な高度なコミュニケーション能力を有し、高い専門性と学際性・社会実践能力を有した自立した研究者、高度専門職業人、または教育者として、国内外での活躍が期待できる。

【生物工学プログラム 博士課程前期】

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士（工学）又は修士（学術）の学位を授与する。

1. 先端生命科学を基盤として生物工学分野における研究能力と専門技術を有している。
2. 生物工学分野とともに先端物質科学を理解し融合できる応用力と実践力、課題発見能力を有している。
3. 科学的論理性とコミュニケーション能力を有し、高度職業人及び研究者として国内外での活躍が期待できる。

【生物工学プログラム 博士課程後期】

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、主たる研究テーマ及び専門領域に応じて、博士（工学）、博士（理学）又は博士（学術）の学位を授与する。

1. 先端生命科学を基盤とする生物工学分野において深い専門的な学識と、高度な研究能力と専門技術を有するとともに、学術成果を国際的に発信できる能力を有している。
2. 生物工学分野の基礎から応用までの学際的視野と社会実践力を兼ね備え、異分野を融合、連携させた課題発見能力及び問題解決能力を有している。
3. 国際社会・人類社会に貢献するための、高度な科学的思考力と実務能力等を有している。

【食品生命科学プログラム 博士課程前期】

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、主たる研究テーマ及び専門領域に応じて、修士（農学）又は修士（学術）の学位を授与する。

1. 食品及び生物機能の解明とその活用について、幅広い専門知識等を習得している。
2. 食品生命科学分野において、深い専門性とともに、基礎から応用までの異分野における理解力を有し、それらを融合、連携させる応用力と実践力、課題発見能力を有している。
3. 専門分野における研究について、科学者・技術者としての高い倫理観を持って対応できる。
4. 研究者・高度専門技術者として、研究成果を国内外の学会等で発表するとともに、論文作成力、プレゼンテーション力を身に付けている。

【食品生命科学プログラム 博士課程後期】

以下の能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、主たる研究テーマ及び専門領域に応じて、博士（農学）又は博士（学術）の学位を授与する。

1. 食品及び生物機能の解明とその活用について、研究を自立して行うために必要な幅広い専門知識を習得している。
2. 食品生命科学分野において、深い専門性とともに、基礎から応用までの学際的視野と社会実践力を兼ね備え、異分野を融合、連携させた課題発見能力及び問題解決能力を有している。
3. 専門分野における問題を的確に理解し、科学的な解決方法を策定し、研究を遂行できる。
4. 倫理観を伴った論理的思考により研究成果をまとめ、高いコミュニケーション能力を通してその成果を効果的に発表できる。
5. 自立した研究者・高度専門技術者として研究の成果を国内外の学会や学術誌に発表できるプレゼンテーション能力や学術論文をまとめる力を身に付けている。

【生物資源科学プログラム 博士課程前期】

以下の能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、主たる研究テーマ及び専門領域に応じて、修士（農学）又は修士（学術）の学位を授与する。

1. 陸域及び水域の生物圏を背景とした持続可能な生物生産と生物資源の活用について、幅広い専門知識等を習得している。
2. 生物資源科学分野において、深い専門性ととともに、基礎から応用までの異分野における理解力を有し、それらを融合、連携させる応用力と実践力、課題発見能力を有している。
3. 専門分野における研究について、科学者・技術者としての高い倫理観を持って対応できる。
4. 研究者・高度専門技術者として、研究成果を国内外の学会等で発表するとともに、論文作成力、プレゼンテーション力を身に付けている。

【生物資源科学プログラム 博士課程後期】

以下の能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、主たる研究テーマ及び専門領域に応じて、博士（農学）又は博士（学術）の学位を授与する。

1. 陸域及び水域の生物圏を背景とした持続可能な生物生産と生物資源の活用について、研究を自立して行うために必要な幅広い専門知識を習得している。
2. 生物資源科学分野において、深い専門性ととともに、基礎から応用までの学際的視野と社会実践力を兼ね備え、異分野を融合、連携させた課題発見能力及び問題解決能力を有している。
3. 専門分野における問題を的確に理解し、科学的な解決方法を策定し、研究を遂行できる。
4. 倫理観を伴った論理的思考により研究成果をまとめ、高いコミュニケーション能力を通してその成果を効果的に発表できる。
5. 自立した研究者・高度専門技術者として研究の成果を国内外の学会や学術誌に発表できるプレゼンテーション能力や学術論文をまとめる力を身に付けている。

【生命環境総合科学プログラム 博士課程前期】

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、主たる研究テーマ及び専門領域に応じて、修士（学術）又は修士（農学）の学位を授与する。

1. 生命科学と環境科学に係わる事項、特にミクロ系(分子, ゲノム), 複雑系(脳, 共生)及びマクロ系(環境, 生態)についての幅広い専門知識・技能を身に付けている。
2. 生命科学や環境科学分野において、深い専門性ととともに、基礎から応用までの異分野における理解力を有し、それらを融合、連携させる応用力と実践力、課題発見能力を有している。
3. 生命科学や環境科学に関する理解と洞察を基盤に、学際性・総合性・創造性に基づく統合的な視野を活用して21世紀の「知識基盤社会」に貢献できる能力を有している。

【生命環境総合科学プログラム 博士課程後期】

以下の能力を身につけ、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、主たる研究テーマ及び専門領域に応じて、博士（学術）又は博士（農学）の学位を授与する。

1. 生命科学と環境科学に係わる事項について、特にミクロ系(分子, ゲノム), 複雑系(脳, 共生)及びマクロ系(環境, 生態)の高度な専門知識・技能を身に付け、自立して研究を実践できる能力を有している。
2. 生命科学や環境科学分野において、深い専門性ととともに、基礎から応用までの学際的視野と社会実践力を兼ね備え、異分野を融合、連携させた課題発見能力及び問題解決能力を有している。
3. 生命科学や環境科学に関する理解と洞察を基盤に、学際性・総合性・創造性を基盤とする統合的な視野を活用して21世紀の「知識基盤社会」をリードしうる能力を有している。

【基礎生物学プログラム 博士課程前期】

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士（理学）又は修士（学術）の学位を授与する。

1. 基礎生物学分野における専門知識、研究能力と専門技術を有している。
2. 基礎生物学分野において、深い専門性ととともに、基礎から応用までの異分野における理解力を有し、それらを融合、連携させる応用力と実践力、課題発見能力を有している。
3. 科学的論理性とコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有し、高度専門職業人及び研究者として国内外での活躍が期待できる。

【基礎生物学プログラム 博士課程後期】

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士（理学）又は博士（学術）の学位を授与する。

1. 基礎生物学分野における高度な専門知識、研究能力と専門技術を有している。
2. 基礎生物学分野において、深い専門性ととともに、基礎から応用までの学際的視野と社会実践力を兼ね備え、異分野を融合、連携させた課題発見能力及び問題解決能力を有している。
3. 基礎生物学分野の学術成果を国際的に発信できる能力を有している。
4. 科学的論理性と高度なコミュニケーション・プレゼンテーション能力を有し、かつ、国際社会に貢献するための、高度な科学的思考力と実務能力を有している。

【数理生命科学プログラム 博士課程前期】

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士（理学）又は修士（学術）の学位を授与する。

1. 数理科学・分子科学・生命科学の各分野における幅広い学識に加えて、それらの融合分野を開拓するための創造能力と研究能力及び高度な専門的能力を有している。
2. 数理生命科学分野において、深い専門性ととともに、基礎から応用までの異分野における理解力を有し、それらを融合、連携させる応用力と実践力、課題発見能力を有している。
3. 数理科学・分子科学・生命科学の各分野、あるいは、それらの融合分野における、応用力と実践力を有している。
4. 科学的論理性とコミュニケーション能力を有し、高度専門職業人及び研究者として国内外での活躍が期待できる。

【数理生命科学プログラム 博士課程後期】

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士（理学）又は博士（学術）の学位を授与する。

1. 数理科学・分子科学・生命科学の各分野における幅広い学識に加えて、それらの融合分野の研究を自立して実践するための創造能力と研究能力を有している。
2. 数理生命科学分野において、深い専門性ととともに、基礎から応用までの学際的視野と社会実践力を兼ね備え、異分野を融合、連携させた課題発見能力及び問題解決能力を有している。
3. 数理科学・分子科学・生命科学の各分野、あるいは、それらの融合分野を開拓するための、国際的な視野、学際的な学識、高度な専門的能力を有し、学術成果を国際的に発信できる能力を有している。
4. 科学的論理性とコミュニケーション能力を有し、高度専門職業人及び研究者として国内外での活躍が期待できる。

【生命医科学プログラム 博士課程前期】

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士（理学）又は修士（学術）の学位を授与する。

1. 生命科学・医科学及びその周辺分野における幅広い学識と知識の応用、分析、評価ができる能力を有している。
2. 当該専門分野における研究能力及び高度な専門的能力を身に付けている。
3. 生命医科学分野において、深い専門性ととともに、基礎から応用までの異分野における理解力を有し、それらを融合、連携させる応用力と実践力、課題発見能力を有している。

【生命医科学プログラム 博士課程後期】

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士（理学）又は博士（学術）の学位を授与する。

1. 生命科学、医科学及びその周辺分野における幅広い学識と知識の高度な応用、分析、評価ができる能力を有している。
2. 国際的な視野に立った学際的な学識を備え、生命科学分野及び医科学分野における研究を自立して実践できる能力及び高度な専門的能力を身に付けている。
3. 生命医科学分野において、深い専門性ととともに、基礎から応用までの学際的視野と社会実践力を兼ね備え、異分野を融合、連携させた課題発見能力及び問題解決能力を有している。

教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

【統合生命科学研究科 博士課程前期】

統合生命科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

1. 大学院共通科目を履修させて、幅広く深い教養と「持続可能な発展を導く科学」の創出への意欲を育成し、さらに生物学・生命科学関連分野において基盤となる統合的な能力を涵養するために、研究科共通科目を開設する。
2. 各学位プログラムでの専門的な知識・能力を育成するために、プログラム専門科目を開設する。
3. 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは異なる専門領域の教員を含む 2 人以上の副指導教員との複数指導体制とする。副指導教員は他研究科、他大学の教員も可能とする。
4. 異分野理解、学際性涵養のため、他の学位プログラムの授業科目や融合科目を履修させるとともに、他研究科や国内外の他大学の授業科目の履修を可能とする。
5. 国際的なコミュニケーション能力育成のため、国際学会での発表力を修得させる。
6. 異分野への発信力、異分野理解力向上のため、分野横断型の修士論文中間発表を開設する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【統合生命科学研究科 博士課程後期】

統合生命科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

1. 大学院共通科目を履修させて、幅広く深い教養と「持続可能な発展を導く科学」の創出への意欲を育成し、さらに社会実践能力、研究倫理などを育成するために研究科共通科目を開設する。
2. 各学位プログラムでの専門的な知識・能力を育成するために、プログラム専門科目を開設する。
3. 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは異なる専門領域の教員を含む、2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。副指導教員は、他研究科の教員や、海外を含む他研究組織の研究者から選出することができる。
4. 異分野理解、学際性涵養のため、副指導教員の所属する研究組織や、最先端の研究プロジェクトにおいても研究を行う。
5. 社会実践能力育成のため、国内外の他研究組織での研究の実施を支援する。
6. 国際的なコミュニケーション能力を身に付けるため、国際学会での発表を支援する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【生物工学プログラム 博士課程前期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 生物工学分野における専門性を深化させるとともに、複合的な先端的知識を統合することができ、実践力にも優れた人材を養成するための教育を行う。
2. 生物工学科目に加え、基盤となる先端生命科学及び先端物質科学と融合した分野横断的科目を開設する。
3. 高いコミュニケーション能力を有し、国際的に通用する高度職業人及び研究者として活躍できる人材を養成するための教育を行う。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【生物工学プログラム 博士課程後期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 生物工学分野における高度で複合的な知識を身に付けるための教育を行う。
2. 複数の教員が提供する講義や自主的で創造的な研究活動を通じて、先端生命科学を基盤とする生物工学分野における高度な研究能力と俯瞰力を養成する。
3. 高いコミュニケーション能力を有し、学術成果を国際的に発信し、グローバルな場面で中心的に活躍できる能力を養成する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【食品生命科学プログラム 博士課程前期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 食品及び生物機能の解明とその利用について、高度な専門知識と専門技術を身に付けるための科目を開設する。
2. 食品及び生物機能の解明とその利用に関する問題の解決に貢献できる能力を養成する科目を開設する。
3. 多様な学生が幅広い生物圏科学領域を学ぶことができる科目を開設する。
4. 国内外の学会や研究会における発表、学術論文、学位論文の執筆を通じ、研究成果を国際発信できる能力を養成する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を实践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【食品生命科学プログラム 博士課程後期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 食品及び生物機能の解明とその利用に関する知識と高度な研究能力と、倫理観を備えた専門技術を養成する。
2. 食品及び生物機能の解明とその利用に関する問題の解決に貢献できる能力を養成する。
3. 自立的に研究の構想、実験の実施、成果のまとめができる力を養い、自ら主体的に研究を展開することを習得させる。
4. 国内外の学会や研究会における発表、学術論文、学位論文の執筆を通じ、研究成果を国際的に発信できる能力を養成する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を实践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【生物資源科学プログラム 博士課程前期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 陸域及び水域における生物資源の生産と活用に関わる生命現象に関する知識と、倫理観を持って、研究能力と専門技術を身に付けるための科目を開設する。
2. 生物資源の利用や食料生産の過程に関する問題の解決に貢献できる能力を養成する科目を開設する。
3. 生物多様性の維持と生物圏環境の保全に関する幅広い生物圏科学領域の知識と研究能力と、専門技術を養成する科目を開設する。
4. 国内外の学会や研究会における発表、学術論文、学位論文の執筆を通じ、研究成果を国際発信できる能力を養成する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【生物資源科学プログラム 博士課程後期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 陸域及び水域における生物資源の生産と活用に関わる生命現象に関する知識と高度な研究能力と、倫理観を備えた専門技術を養成する。
2. 生物資源や食料生産の過程に関する問題の解決に貢献できる能力を養成する。
3. 生物多様性の維持と生物圏環境の保全に関する幅広い生物圏科学領域の知識と高度な研究能力と、専門技術を養成する。
4. 国内外の学会や研究会における発表、学術論文、学位論文の執筆を通じ、研究成果を国際的に発信できる能力を養成する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【生命環境総合科学プログラム 博士課程前期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 生命科学を統合的に捉えることができる能力を習得する科目を開設する。
2. 生命科学や環境科学の各個別分野に関して特定分野を重点的に学んで深化させると同時に幅広い知識を習得する科目を開設する。
3. 複数の教員による研究指導により、研究能力や専門的知識・技能を駆使して統合的な視点で生命環境科学に係わる事項を検証する能力を身に付けさせる。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を实践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【生命環境総合科学プログラム 博士課程後期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 生命科学を統合的に捉えることができる能力を習得する科目を開設する。
2. 生命科学や環境科学の各個別分野に関して特定分野を重点的に学んで深化させると同時に幅広い知識を習得する科目を開設する。
3. 異分野の教員を含む複数の指導教員による研究指導により、研究能力や専門的知識・技能を高度に駆使して統合的な視点で生命環境科学に係わる事項を検証する能力を身に付けさせる。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を实践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【基礎生物学プログラム 博士課程前期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 基礎生物学分野に関連する専門的な科目を開設し、基礎生物学分野に関する知識と研究能力、専門技術を有する人材を育成するための教育を行う。
2. 演習や研究指導を通じ、研究遂行能力に優れた人材を養成するための教育を行う。
3. 国内外の学会や研究会に学生を積極的に派遣するとともに、プレゼンテーション能力を身につけるための科目を開設する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を实践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【基礎生物学プログラム 博士課程後期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 基礎生物学分野に関連する専門性の高い科目を開設し、基礎生物学分野に関する高度で複合的な知識と研究能力、専門技術を有する人材を育成するための教育を行う。
2. 学生の自主的で創造的な発想に基づく研究活動、教員や共同研究者との議論、また複数の教員による指導を通して、高度な研究能力と俯瞰力を養成する。
3. 演習や研究指導を通じ、研究遂行能力に優れた人材を養成するための教育を行う。
4. 国内外の学会や研究会における発表、学術論文、学位論文の執筆を通じ、研究成果を国際的に発信できる能力を養成する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を实践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【数理生命科学プログラム 博士課程前期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 数理科学・分子科学・生命科学の各分野と分野間融合に関連する専門的な科目を開設し、これらの分野に関する知識と研究能力、専門的能力を有する人材を育成するための教育を行う。
2. 数理科学・分子科学・生命科学の各分野と分野間融合に関連する演習や実験・理論の研究を通じ、実践力にも優れた人材を養成するための教育を行う。
3. 国内外の学会や研究会に学生を積極的に派遣し、国際的なコミュニケーション能力を身につけるための科目を開設する。
4. グローバルな視野を持って思考して常に平和を希求し、自主的、積極的に対応できる能力を獲得させるために、生涯において自己研鑽する姿勢を習得する教育を行う。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【数理生命科学プログラム 博士課程後期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 数理科学・分子科学・生命科学の各分野と分野間融合に関連する専門的な科目を開設し、これらの分野に関する知識と研究能力、専門的能力を有する人材を育成するための教育を行う。
2. 数理科学・分子科学・生命科学の各分野あるいは融合分野における研究を自立して実践する能力及び高度な専門的能力を習得する教育を行う。
3. 学生の自主的で創造的な発想に基づく研究活動、教員や共同研究者との議論、また複数の教員による指導を通して、高度な研究能力と俯瞰力を養成する。
4. 国内外の学会や研究会における発表、学術論文、学位論文の執筆を通じ、研究成果を国際的に発信できる能力を養成する。
5. グローバルな視野を持って思考して常に平和を希求し、自主的、積極的に対応できる能力を獲得させるために、生涯において自己研鑽する姿勢を習得する教育を行う。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また、学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

【生命医科学プログラム 博士課程前期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 生命科学，医科学分野における学士課程教育によって習得した能力を発展させ，生命科学，医科学及びその周辺分野における研究能力及び専門的能力を養成する教育を行う。
2. 人類の健康長寿を意識しながら学際的生命科学領域*を体系的に学ぶことで，将来の生命科学分野及び医科学分野を牽引できる人材を養成するための教育を行う。
3. グローバルな視野を持って常に人類の健康と長寿を希求し，生涯において自己研鑽できる人材を養成するための教育を行う。

上記のように編成した教育課程では，講義，演習等の教育内容に応じて，アクティブラーニング，オンライン教育なども活用した教育，学習を実践する。

学修成果については，シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また，学位審査の実施に際しては，研究科の定める基準により評価する。

*学際的生命科学領域とは，医学，歯学，薬学，理学，工学，農学を含む。

【生命医科学プログラム 博士課程後期】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

1. 国際的視野に立った学際的な学識を備え，生命科学，医科学及びその周辺分野における研究を自立して実践する能力及び高度な専門的能力を習得する教育を行う。
2. 人類の健康長寿を意識しながら学際的生命科学領域*を体系的に学ぶことで，将来の生命科学分野及び医科学分野を牽引できる人材を養成するための教育を行う。
3. グローバルな視野を持って常に人類の健康と長寿を希求し，生涯において自己研鑽できる人材を養成するための教育を行う。

上記のように編成した教育課程では，講義，演習等の教育内容に応じて，アクティブラーニング，オンライン教育なども活用した教育，学習を実践する。

学修成果については，シラバスに成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行う。また，学位審査の実施に際しては，研究科の定める基準により評価する。

*学際的生命科学領域とは，医学，歯学，薬学，理学，工学，農学を含む。

広島大学大学院統合生命科学研究科 学位授与の判定基準及び学位論文の評価基準

【博士課程前期】

広島大学大学院統合生命科学研究科では、次の判定基準に基づいて修士の学位審査を行い、適当と認められる者に対して、修士（理学）、修士（工学）、修士（農学）又は修士（学術）の学位を授与する。

（学位授与の判定基準）

1. 修士の学位を受ける者は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、生物学・生命科学に関連する研究領域における基礎から応用までの広い分野に対する理解と高い専門性を総合的に身に付け、幅広く深い教養を持って、他の研究分野とも柔軟に融合・連携しながら「持続可能な発展を導く科学」を創出する力を有していること、さらに国際性と社会実装を意識し、現実的な諸課題の問題解決への応用力と実践力を有していること。
2. 修士論文は次に定める「学位論文の評価基準」を満たしていること。
3. 修士の学位を受ける者は、当該専門分野の発表会・審査委員会で学術研究に相応しい研究発表を行い、質疑に対し論理的、かつ、明解に応答すること。
4. 修士学位論文の提出については、別に定める。

（学位論文の評価基準）

論文の審査項目

1. 研究倫理教育（標準プログラム）を修了し、研究倫理面の配慮が十分、かつ、適切になされている。
2. 当該研究領域における修士として十分な知識を修得し、問題を的確に把握し、解明する能力を身に付けている。
3. 研究テーマの設定が申請された学位に対して妥当なものであり、論文作成にあたっての問題意識が明確である。
4. 論文の記述（本文、図、表、引用など）が十分、かつ、適切であり、結論に至るまで首尾一貫した論理構成になっている。
5. 設定したテーマの研究に際して、適切な研究方法、調査・実験方法、あるいは論証方法を採用し、それに則って具体的な分析・考察がなされている。
6. 当該研究領域の理論的見地又は実証的見地から見て、独自の価値を有するものとなっている。

【博士課程後期】

広島大学大学院統合生命科学研究科では、次の判定基準に基づいて博士の学位審査を行い、適当と認められる者に対して、博士（理学）、博士（工学）、博士（農学）又は博士（学術）の学位を授与する。

（学位授与の判定基準）

1. 博士の学位を受ける者は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、生物学・生命科学に関連する研究領域における基礎から応用までの広い分野に対する理解と高い専門性を統合的に身に付け、幅広く深い教養を持って、他の研究分野とも柔軟に融合・連携しながら「持続可能な発展を導く科学」を創出する力を有していること、さらに国際性と社会実装を意識し、現実的な諸課題への問題提起、解決能力を有していること。
2. 博士論文は次に定める「学位論文の評価基準」を満たしていること。
3. 博士の学位を受ける者は、当該専門分野の発表会・審査委員会で学術研究に相応しい研究発表を行い、質疑に対し論理的、かつ、明解に応答すること。
4. 博士学位論文の提出については、別に定める。

（学位論文の評価基準）

論文の審査項目

1. 研究倫理教育（標準プログラム）を修了し、研究倫理面の配慮が十分、かつ、適切になされている。
2. 当該研究領域における博士として十分な知識を修得し、問題を適格に把握し、解明する能力を身に付けている。
3. 研究テーマの設定が申請された学位に対して妥当なものであり、論文作成にあたっての問題意識が明確である。
4. 論文の記述（本文、図、表、引用など）が十分、かつ、適切であり、結論に至るまで首尾一貫した論理構成になっており、理論的に明確な結論が導かれている。
5. 設定したテーマの研究に際して、適切な研究方法、調査・実験方法、あるいは論証方法を採用し、それに則って具体的な分析・考察がなされている。
6. 当該研究領域の理論的見地又は実証的見地に加え、国際的な学術水準及び学際的観点からみて、独自の価値を有するものとなっている。

広島大学大学院統合生命科学研究科学位名の基準について

(令和3年11月30日統合生命科学研究科代議員会承認)

博士（理学）は、研究テーマ及び専門領域が、数理科学、分子科学、生命科学及びその周辺分野であり、主として理学的観点による優れた研究成果が得られた場合に授与する。

博士（工学）は、研究テーマ及び専門領域が、生命科学を基盤とする生物工学分野であり、主として生物工学的観点による優れた研究成果が得られた場合に授与する。

博士（農学）は、研究テーマ及び専門領域が、食品科学、生物資源科学、環境科学に関わる分野であり、主として農学的観点による優れた研究成果が得られた場合に授与する。

博士（学術）は、研究テーマ及び専門領域が、生命科学分野あるいはその関連分野であり、主として学際的観点をもって優れた研究が行われた場合に授与する。

修士（理学）は、研究テーマ及び専門領域が、数理科学、分子科学、生命科学及びその周辺分野であり、主として理学的観点による研究成果が得られた場合に授与する。

修士（工学）は、研究テーマ及び専門領域が、生命科学を基盤とする生物工学分野であり、主として生物工学的観点による研究成果が得られた場合に授与する。

修士（農学）は、研究テーマ及び専門領域が、食品科学、生物資源科学、環境科学に関わる分野であり、主として農学的観点による研究成果が得られた場合に授与する。

修士（学術）は、研究テーマ及び専門領域が、生命科学分野あるいはその関連分野であり、主として学際的観点をもって研究が行われた場合に授与する。

I 教 務 関 係

**博士課程前期・後期
(共通)**

1. 広島大学大学院統合生命科学研究科細則

(平成 31 年 4 月 1 日研究科長決裁)

広島大学大学院統合生命科学研究科細則

(趣旨)

第 1 条 この細則は、広島大学大学院規則(平成 20 年 1 月 15 日規則第 2 号。以下「大学院規則」という。)に定めるもののほか、広島大学大学院統合生命科学研究科(以下「研究科」という。)の学生の修学に関し、必要な事項を定めるものとする。

(教育研究上の目的)

第 2 条 研究科は、発展・変革し続ける生物学・生命科学系の研究領域に迅速に適応し、他の研究分野とも柔軟に融合・連携しながら、イノベーションを創出し、基礎から応用まで、幅広い分野に対する理解と高い専門性を身につけ、グローバル社会における様々な諸課題を解決できる研究者、高度専門職業人及び教育者を養成するとともに、生物学・生命科学に関連する研究領域において、他の研究分野とも柔軟に融合・連携しながら持続可能な発展を導く科学を創出し、グローバル社会における様々な諸課題を解決するため、次の各号の能力を習得させることを目的とする。

- (1) 基礎生物学、数理科学、分子科学、生物機能学、環境科学、生物資源科学、生物生産科学、食品科学、生物工学、医科学及びこれらの関連分野や融合分野における研究能力と専門技術
- (2) 前号の研究領域において、高い専門性ととともに、基礎から応用までの異分野に対する理解力を有し、それらを融合・連携させる応用力、実践力及び課題発見能力
- (3) 科学的論理性と研究倫理の理解力、異分野への情報発信能力及び国際的・学際的なコミュニケーション能力

(学位プログラム)

第 3 条 統合生命科学専攻に次の各号の学位プログラムを置く。

- (1) 生物工学プログラム
- (2) 食品生命科学プログラム
- (3) 生物資源科学プログラム
- (4) 生命環境総合科学プログラム
- (5) 基礎生物学プログラム
- (6) 数理生命科学プログラム
- (7) 生命医科学プログラム

2 学生は、前項に掲げる学位プログラムのうち、いずれか一つを専攻するものとする。

(教育課程)

第 4 条 研究科の教育課程は、別表第 1 のとおりとする。

(授業科目等)

第5条 研究科において開設する授業科目及びその単位数は、別表第2のとおりとする。

2 授業時間割表は、学年の始めに発表する。

(単位数の計算基準)

第6条 授業科目の単位数の計算は、次の基準による。

(1) 講義は、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習は、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験及び実習は、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。

2 一の授業科目について、二以上の方法の併用により授業を行う場合の単位数の計算は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとなるよう、前項の基準を考慮してそれらの方法ごとに時間を定めるものとする。

(履修方法)

第7条 学生は、主指導教員の指導により、履修しようとする授業科目を決定し、当該授業科目担当教員の承認を得て、毎学期の指定する期間に所定の手続をしなければならない。

2 前項の規定による所定の手続をしない者には、履修を認めない。ただし、特別の事情があると認められる場合に限り、当該授業科目担当教員の承認を得て履修を認めることができる。

3 学生は、主指導教員が必要と認めた場合は、他の研究科の授業科目を当該研究科の定めるところにより履修することができる。

4 他の研究科の学生は、研究科の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目担当教員の承認を得て、毎学期の指定する期間に所定の手続をしなければならない。

(履修科目の登録の上限)

第7条の2 修了の要件として学生が修得すべき単位数について、博士課程前期の学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、26単位とする。ただし、集中講義の授業科目の単位を除く。

2 前項の規定にかかわらず、別に定めるところにより所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、次学期に単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

(指導教員)

第8条 広島大学大学院統合生命科学研究科教授会(以下「教授会」という。)は、授業科目の履修指導及び研究指導を行うために、学生の入学後速やかに学生ごとに主指導教員1人及び2人以上の副指導教員を定める。ただし、副指導教員のうち1人は、学生が専攻する学位プログラム以外の担当教員とし、他研究科又は他大学の教員も可能とする。

2 学生は、指導教員の変更を希望するときは、関係指導教員の承認を得て研究科長に願い出て、その承認を得なければならない。ただし、特別の事情がある場合は、研究科長に直接願い出ることができる。

(研究題目)

第9条 学生は、主指導教員の指導により、入学後速やかに研究題目を研究科長に届け出なければならない。

(教育方法の特例)

第10条 研究科の課程においては、教授会の議を経て研究科長が教育上特別の必要があると認めたときは、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

2 教育方法の特例に関する取扱いは、別に定める。

(長期にわたる教育課程の履修)

第11条 長期にわたる教育課程の履修については、広島大学長期履修の取扱いに関する細則(平成16年4月1日副学長(教育・学生担当)決裁)の定めるところにより取り扱う。

2 長期履修の期間の最長年限は、博士課程前期にあつては4年、博士課程後期にあつては6年とする。

(入学前の既修得単位の認定)

第12条 研究科は、教育上有益と認めるときは、研究科に入学する前に大学院(外国の大学院を含む。)において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、転学の場合を除き、研究科において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)以外のものについては、10単位を超えないものとする。

3 前2項の規定による既修得単位の認定は、広島大学既修得単位等の認定に関する細則(平成16年4月1日副学長(教育・学生担当)決裁)の定めるところによる。

(教員免許)

第13条 学生は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所定の授業科目の単位を修得したときは、次の表に掲げる免許状及び免許教科の種類に応じ、教育職員の普通免許状の授与を受ける所要資格を得ることができる。

免許状の種類	免許教科の種類
高等学校教諭専修免許状	数学, 理科, 工業
中学校教諭専修免許状	数学, 理科

2 前項の授業科目及びその履修方法等については、別に定める。

(博士課程前期の修了要件)

第14条 博士課程前期の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、別表第1に定める授業科目を履修の上30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を在学期間中に提出してその審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関

しては、教授会の議を経て研究科長が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、大学院規則第25条の2第1項に定める卓越大学院プログラムを履修する者または、大学院規則第25条の3第1項に定める博士課程リーダー育成プログラムを履修する者は、修士論文の審査及び最終試験に合格することに代えて、次に掲げる試験及び審査に合格することとすることができる。

(1) 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養であって当該博士課程前期において修得し、又は涵養すべきものについての試験

(2) 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該博士課程前期において修得すべきものについての審査

(博士課程後期の修了要件)

第15条 博士課程後期の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、別表に定める授業科目を履修の上20単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を在学期間中に提出してその審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会の議を経て研究科長が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に1年(標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程を修了した者及び標準修業年限を1年以上2年未満とした専門職学位課程を修了した者にあつては3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間とし、大学院設置基準第16条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者にあつては3年から当該課程における在学期間(2年を限度とする。)を減じた期間とする。)以上在学すれば足りるものとする。

(学位論文の提出)

第16条 博士課程前期の学生は、別に定める期日までに、指導教員の承認を得て修士論文題目届及び修士論文を研究科長に提出しなければならない。

第17条 博士課程後期の学生は、別に定める期日までに、指導教員の承認を得て博士論文を研究科長に提出しなければならない。

(学位論文の審査)

第18条 学位論文の審査については、広島大学学位規則(平成16年4月1日規則第8号)及び広島大学学位規則統合生命科学研究科内規(平成31年4月1日研究科長決裁)の定めるところによる。

(最終試験)

第19条 博士課程前期及び博士課程後期の最終試験は、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、所定の学位論文を提出した者について行う。

- 2 最終試験の期日及び方法は、あらかじめ発表する。

(休学)

第20条 学生が休学しようとするときは、所定の手続を行い、研究科長の許可を得なければならない。

(退学)

第 21 条 学生が退学しようとするときは、所定の手続を行い、学長の許可を得なければならない。

(転学)

第 22 条 学生が他の大学院に転学しようとするときは、所定の手続を行い、学長に願い出なければならない。

(再入学)

第 23 条 博士課程前期又は博士課程後期を退学（懲戒退学を除く。）し、又は除籍（大学院規則第 42 条において準用する広島大学通則（平成 16 年 4 月 1 日規則第 2 号）第 43 条第 2 号による除籍を除く。）となった者で再入学を志願するものは、学期の始めに限り教授会の議を経て、学長に願い出ることができる。この場合において、再入学した者の修業年限及び在学年限については、別に定める。

(学位プログラムの変更)

第 24 条 学生が専攻する学位プログラムの変更を希望するときは、教授会の議を経て、研究科長の許可を得なければならない。

(雑則)

第 25 条 この細則に定めるもののほか、学生の修学に関し必要な事項は、教授会の議を経て別に定める。

附 則

この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

(略)

附 則 (令和 7 年 3 月 25 日 一部改正)

- 1 この細則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 令和 6 年 10 月 1 日以前に入学した学生の教育課程については、この細則による改正後の広島大学大学院統合生命科学研究科細則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

2. 履修手続について

広島大学大学院統合生命科学研究科細則（第 7 条）に基づき、下記により手続を行ってください。

(1) 履修手続について

- ① 履修手続は、学内外のパソコンを利用して「My もみじ」から行ってください。

「My もみじ」は、本学の学生向けポータルサイト「学生情報の森もみじ」から接続する個人用ページです。

「学生情報の森もみじ」 <https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/index.shtml>

- ② 何らかの理由により、「My もみじ」からの履修登録ができない場合は、所属プログラムを担当する支援室（大学院課程担当等）へ申し出てください。

(2) 履修登録期間について

- ① 履修手続は、原則として各学期又はタームの授業開始日から 1 週間で行います。

- ② 具体的な日程は、「学生情報の森もみじ」で確認してください。

- ③ 履修手続期間終了後は、履修科目の登録や取消は原則できません。

- ④ 集中講義等は各学部・研究科において、別途履修手続期間を設けて受け付けることがあります。

その場合は、「My もみじ」の掲示又は各学部・研究科の支援室（大学院課程担当等）で確認してください。

- ⑤ その他、履修手続に関することは、「My もみじ」の掲示等で通知します。

※ 「My もみじ」について

大学から学生のみなさんへの伝達事項は、「My もみじ」に掲示しますので、一日一度は必ず「My もみじ」にログインして確認するよう心掛けてください。ただし、「My もみじ」が正常に稼働しない場合は、研究科の掲示板にも掲示されます。また、重要な事項につきましても同様に掲示します。

掲示を見なかったために不利益を受けることのないように注意してください。

3. 研究倫理教育について

平成 26 年 8 月「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」が文部科学大臣決定され、本学においても平成 27 年度より、研究活動に携わる教職員等は研究倫理教育を受講することが義務化されました。

さらに、「第 3 次大学院教育振興対策要綱」（平成 28 年 3 月文部科学大臣決定）により、学生の研究倫理教育に関する規範意識の徹底や、大学が授与する博士号への国際的信頼性を確保するため、各大学においては研究倫理教育の実施や博士論文の指導・審査体制の改善に一層取り組むことが求められ、本学においても「学生の研究倫理教育」を導入しています。

統合生命科学研究科では、「学生の研究倫理教育」を、下記のとおり実施いたします。

学生の研究倫理教育の概要

①研究倫理教育：「大学院生 Basic」

（博士課程前期）

【実施時期】：1 年次の必修科目「生命科学研究法」（3 ターム開講）

※内容「社会的責任を全うするための研究倫理について」講義 4 回を受講

【実施単位】：全新入生

【実施方法】：講義形式

【使用言語】：資料（日本語）を用いて行う。

【受講確認】：出席確認を必須とする。

※留学生は、博士課程後期学生と同様に moodle を使用して受講する。

（博士課程後期）

【実施時期】：開催予定時期は、入学時期に合わせ、4 月及び 10 月の 2 回実施。

【実施単位】：全新入生（【その他】参照、進学者は免除する。）

【実施方法】：moodle を使用して研究倫理教育（大学院生 Basic）を受講する。

【使用言語】：資料（日本語、英語）を用いて行う。

【受講確認】：確認テストの合格を必須とする。

【その他】：

本講習会を受講できなかった者（社会人ドクター等）及び外国人留学生は、eAPRIN の e-learning*1で対応することも可能とする。

なお、博士課程前期入学時に研究倫理教育（大学院生 Basic）を受講した者が博士課程後期に進学した場合は、博士課程後期入学時に実施する「大学院生 Basic」の受講は免除する。

*1 「大学院生 Basic」に代替する eAPRIN の e-learning の受講単元は、領域名「責任ある研究行為 基盤編(RCR)」のうちから、「責任ある研究行為について」、「研究における不正行為」、「データの扱い」の 3 単元とする。

②研究倫理教育（大学院生 Advanced(M), Advanced(D)）

【実施時期】：修士論文及び博士論文作成開始前までに実施。

（修了年次の3月修了生は当該年度の10月まで、9月修了生は当該年度の4月までに実施）

【実施単位】：原則、研究室単位（複数での研究室での実施可）

【研究倫理教育実施者】：原則、指導教員が実施

【実施方法】：討論形式（JSPSのテキスト「科学の健全な発展のために」のSection.IVを用いた討論形式で行う*2）

【使用言語】：日本語、英語

【受講確認】：「受講修了証」（教員署名）による受講確認

【受講修了証】：研究倫理教育実施者は実施後速やかに、「受講修了証」を所属するプログラムを担当する支援室（大学院課程担当等）*3に提出すること。

【その他】：

本討論形式の研究倫理教育を受講できない者（社会人ドクター等）は指導教員の了解を得た上でeAPRINのe-learning*4で対応することとする。

博士課程前期[Advanced(M)]及び博士課程後期[Advanced(D)]時にそれぞれ実施すること。

学生の研究倫理教育の受講状況の確認について

学生の研究倫理教育の受講歴を、学生本人及び指導教員は「My もみじ」の学生情報から確認できます。「学籍情報-学籍情報参照/免許・資格・研究倫理情報」

<問い合わせ先>

生物工学プログラム：理学系支援室分室（学生支援担当）

食品生命科学プログラム、生物資源科学プログラム：

生物学系総括支援室（大学院課程担当）

生命環境総合科学プログラム：総合科学系支援室（大学院課程担当）

基礎生物学プログラム、数理生命科学プログラム、生命医科学プログラム：

理学系支援室（大学院課程担当）

*2 JSPSのテキスト「科学の健全な発展のために」のSection.IVを教員、学生が熟読の上、要約を説明し、教員が学生による要約説明の内容を質疑、テキストにある不正問題や当該分野の問題、一般的な問題をディスカッションする。

*3 所属するプログラムで支援室の場所が異なることに留意。

*4 大学院生 Advanced(M), Advanced(D)に代替するeAPRINのe-learningの受講単元は、領域名「責任ある研究行為 基盤編(RCR/理工系)」のうちから、「責任あるオーサiership」の1単元とする。

4. 大学院スキルアップ科目について

広島大学大学院では、全ての研究科の学生がスキル向上のため履修できる授業科目として、次の授業科目を提供しています。

＜令和7年度開設科目＞

授業科目名	開設 単位数	開設部局
中国語教育カリキュラム開発論Ⅰ	1	外国語教育研究センター
中国語教育カリキュラム開発論Ⅱ	1	
中国語教育カリキュラム開発論Ⅲ	1	
中国語教育カリキュラム開発論Ⅳ	1	
学術文章の書き方とその指導法ー大学教員を目指してー	2	ライティングセンター
Qualitative Research Methods: Discourse Analysis and Multimodality	2	
Genre-based Pedagogy I: Curriculum and Lesson Development	1	
Genre-based Pedagogy II: Self-directed Learning of English Literacies and Disciplinary Literacies	1	
Technology-enhanced Research Writing	2	
Career management course by female researchers	1	教育本部
大学教員養成講座基礎	2	教育学習支援センター
Introduction to topology	2	持続可能性に寄与する キラルノット超物質国 際研究所
Introduction to homotopy theory & its applications to physical systems	2	
e-start Chiral Sciences	1	
Chiral Knot Special Lectures	1	

※年度によっては不開講の科目もあります。

※シラバスの確認、履修手続きは原則「My もみじ」で行ってください。

5. 大学院共通科目について

広島大学大学院では、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、最近の社会システムの進展を正しく把握し、現代社会で活躍するための基本的な知識を身に付けるために、大学院共通科目を設けています。

なお、当該科目については、全ての研究科等において選択必修となっており、「持続可能な発展科目」「キャリア開発・データリテラシー科目」から各1単位以上修得する必要があります。

〈科目区分及び教育目標〉

◆持続可能な発展科目

国際的目標である持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)を理解し、持続可能な発展を導く科学を創出する能力及び社会の様々な課題を解決する能力を身につける。

◆キャリア開発・データリテラシー科目

最近の社会システムの進展を知り、これからの時代に必須な知識を身につけ、現代社会の課題に具体的に取り組み、必須な知識・技術を使うことができる能力を身につける。

〈令和7(2025)年度開設科目〉

1. 博士課程前期・修士課程・専門職学位課程

科目区分	授業科目	単位数
持続可能な発展科目	Hiroshima から世界平和を考える	1
	Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1
	Japanese Experience of Human Development- Culture, Education, and Health	1
	SDGs への学問的アプローチ A	1
	SDGs への学問的アプローチ B	1
	ダイバーシティの理解	1
	SDGs への実践的アプローチ	1
	原爆文学、芸術を通して「平和」を考える-被爆者の経験記をもとに-	1
	Climate Change Adaptation and Mitigation	1
	Innovation and Practice for Smart Society	1
キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1
	医療情報リテラシー	1
	ストレスマネジメント	2
	MOT 入門	1
	情報セキュリティ	1
	アントレプレナーシップ概論	1
	情報科学概論 I	1
	情報科学概論 II	1
	理系基礎研究者養成概論	1
	キャリアマネジメント特論	2
	留学生のためのキャリアマネジメント講座 A	1
	留学生のためのキャリアマネジメント講座 B	1

2. 博士課程後期・博士課程

科目区分	授業科目	単位数
持続可能な 発展科目	スペシャリスト型 SDGs アイディアマイニング学生セミナー	1
	SDGs の観点から見た地域開発セミナー	1
	普遍的平和を目指して	1
	原爆文学、戦争文学と平和-被爆者と強制収容所囚人の経験記をもとに-	1
キャリア開 発・データリ テラシー科目	データサイエンス	2
	パターン認識と機械学習	2
	データサイエンティスト養成	1
	医療情報リテラシー活用	1
	リーダーシップ手法	1
	キャリアマネジメントセミナー	1
	イノベーション演習	2
	長期インターンシップ	2
	事業創造概論	1

【大学院共通科目問合せ先】

教育推進グループ（教養教育担当）

場所：総合科学部事務棟 1 階

電話番号：082-424-4218

E-Mail：gsyugaku-group@office.hiroshima-u.ac.jp

6. 教育職員免許状の取得について

当該免許状の一種免許状を有し又は所要資格を得た後、下記専門科目の中から24単位以上を修得すれば、中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状授与を申請することができる。

教育職員免許法に定める科目一覧表

施行規則に定める科目区分等	科目区分	教科 免許 科目名	教科専門科目	
			免許法上の専門科目に相当する大学の専門科目	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	数学	数理計算理学概論	数理生物学
			数理計算理学特別演習A	応用数理学A
			数理計算理学特別演習B	応用数理学B
			数理モデリングA	大規模計算・データ科学
			数理モデリングB	数理計算理学特論A
			数理モデリングC	数理計算理学特論B
			数理モデリングD	数理計算理学特論C
			計算数理科学A	数理計算理学特論D
			計算数理科学B	
		理科	食品生命科学特別演習A	細胞生命学特論
			食品生命科学特別演習B	セルダイナミクス・ゲノミクス学特論
			食品物理学I	自然史学特論
			生理活性天然物化学I	分子生理学特論
			食品衛生微生物学I	生命理学概論
			応用動物生命科学	生命理学特別演習A
			食品栄養機能学I	生命理学特別演習B
			応用分子細胞生物学I	分子遺伝学
			生物資源科学特別演習A	分子形質発現学
			生物資源科学特別演習B	分子生物物理学
			水産資源管理学I	プロテオミクス
			水圏動物機能学	プロテオミクス実験法・同実習
			水族生態学(高)	生物化学A
			水産生物海洋学I	生物化学B
			植物生産機能学I	自己組織化学A
			家畜生産機能学I	自己組織化学B
			家畜飼養管理学	生命理学特論A
			陸域生物圏フィールド科学	生命理学特論B
			生命環境総合科学特別演習A	生命理学特論C
			生命環境総合科学特別演習B	生命理学特論D
			環境機能化学	生命医科学セミナーA
			生物多様性科学(環境科学入門)	生命医科学セミナーB
			先端基礎生物学研究演習A	先端生命技術概論
			先端基礎生物学研究演習B	疾患モデル生物概論
			基礎生物学特別演習A	生命医科学特別演習A
			基礎生物学特別演習B	生命医科学特別演習B
		工業	生物学演習	環境バイオテクノロジーA
			生物学特別演習A	環境バイオテクノロジーB
			生物学特別演習B	ナノバイオ融合マテリアル工学
			統合ゲノム科学A	複合センシング工学
			統合ゲノム科学B	生物学特別講義A
			細胞機能科学A	生物学特別講義B
			細胞機能科学B	生物学特別講義C
			生命機能工学A	生物学特別講義D
			生命機能工学B	

博士課程前期（修士）

7. 授業科目と履修方法について

別表第1（細則第4条関係）

生物工学プログラム（博士課程前期）

履修区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	履修方法及び修了要件		
必修科目	研究科 共通科目	統合生命科学特別講義	1	2	14 単位	○履修方法 1 必修科目 研究科共通科目 4 単位 プログラム専門科目 10 単位 2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1 単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1 単位以上 研究科共通科目 2 単位以上 プログラム専門科目 6 単位以上 3 選択科目 他プログラム及び他研究科専門科目 6 単位以上 (履修に当たっては、指導教員グループに 相談の上、履修科目を決定する。) ○修了要件	
		生命科学研究法	1	2			
	プログラム 専門科目	生物工学演習	1～2	2			
		生物工学特別演習 A	1	2			
		生物工学特別演習 B	1	2			
	生物工学特別研究	1～2	4				
選択必修科目	大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2	1	1 単位 以上	1 必修科目 14 単位 選択必修科目 10 単位以上 選択科目 6 単位以上 合 計 30 単位以上 2 研究指導 3 修士論文 若しくは 所定の基準による研究成果の審査及び最終 試験 又は 博士論文研究基礎力審査 に合格すること	
		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2	1			
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2	1			
		SDGsへの学問的アプローチ A	1・2	1			
		SDGsへの学問的アプローチ B	1・2	1			
		ダイバーシティの理解	1・2	1			
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2	1			
		原爆文学、芸術を通して「平和」を考える-被爆 者の経験記をもとに-	1・2	1			
		Climate Change Adaptation and Mitigation	1・2	1			
		Innovation and Practice for Smart Society	1・2	1			
		キャリア 開発・ データリテラシー 科目	データリテラシー	1・2			1
	医療情報リテラシー		1・2	1			
	キャリアマネジメント特論		1・2	2			
	ストレスマネジメント		1・2	2			
	MOT入門		1・2	1			
	情報セキュリティ		1・2	1			
	アントレプレナーシップ概論		1・2	1			
	情報科学概論Ⅰ		1・2	1			
	情報科学概論Ⅱ		1・2	1			
	理系基礎研究者養成概論		1・2	1			
	研究科 共通科目	留学生のためのキャリアマネジメント講座A	1・2	1	2 単位 以上		
		留学生のためのキャリアマネジメント講座B	1・2	1			
	プログラム 専門科目	研究科 共通科目	海外学術活動演習	1・2	2		6 単位 以上
			プログラム共同セミナー A	1・2	2		
		プログラム 専門科目	統合ゲノム科学 A	1・2	2		
			統合ゲノム科学 B	1・2	2		
			細胞機能科学 A	1・2	2		
			細胞機能科学 B	1・2	2		
			生命機能工学 A	1・2	2		
			生命機能工学 B	1・2	2		
			環境バイオテクノロジー A	1・2	2		
			環境バイオテクノロジー B	1・2	2		
			ナノバイオ融合マテリアル工学	1・2	2		
			複合センシング工学	1・2	2		
			生物工学特別講義 A	1・2	1		
			生物工学特別講義 B	1・2	1		
			生物工学特別講義 C	1・2	1		
			生物工学特別講義 D	1・2	1		

※配当年次の記載 1：1年次に履修， 2：2年次に履修， 1～2：1年次から2年次で履修， 1・2：履修年次を問わない。

※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は、別途履修表を参照すること。

食品生命科学プログラム（博士課程前期）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	履修方法及び修了要件	
必修科目	研究科共通科目	統合生命科学特別講義	1	2	12単位	○履修方法 1 必修科目 研究科共通科目 4単位 プログラム専門科目 8単位 2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目 2単位以上 プログラム専門科目 8単位以上 3 選択科目 他プログラム及び他研究科専門科目 6単位以上 (自由科目は除く。履修に当たっては、指導教員グループに相談の上、履修科目を決定する。)
		生命科学研究法	1	2		
	プログラム専門科目	食品生命科学特別演習 A	1	2		
		食品生命科学特別演習 B	1	2		
		食品生命科学特別研究	1～2	4		
選択必修科目	大学院共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2	1	1単位以上	○修了要件 1 必修科目 12単位 選択必修科目 12単位以上 選択科目 6単位以上 合 計 30単位以上 2 研究指導 3 修士論文 若しくは 所定の基準による研究成果の審査及び最終試験 又は 博士論文研究基礎力審査に合格すること
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2	1		
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2	1		
		SDGsへの学問的アプローチ A	1・2	1		
		SDGsへの学問的アプローチ B	1・2	1		
		ダイバーシティの理解	1・2	1		
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2	1		
		原爆文学、芸術を通して「平和」を考える-被爆者の経験記をもとに-	1・2	1		
		Climate Change Adaptation and Mitigation	1・2	1		
		Innovation and Practice for Smart Society	1・2	1		
		キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2		
	医療情報リテラシー		1・2	1		
	キャリアマネジメント特論		1・2	2		
	ストレスマネジメント		1・2	2		
	MOT入門		1・2	1		
	情報セキュリティ		1・2	1		
	アントレプレナーシップ概論		1・2	1		
	情報科学概論Ⅰ		1・2	1		
	情報科学概論Ⅱ		1・2	1		
	理系基礎研究者養成概論		1・2	1		
	研究科共通科目	海外学術活動演習	1・2	2	2単位以上	
		プログラム共同セミナー A	1・2	2		
	プログラム専門科目	食品物理学Ⅰ	1・2	2	8単位以上	
		食品物理学Ⅱ	1・2	2		
		生理活性天然物化学Ⅰ	1・2	2		
		生理活性天然物化学Ⅱ	1・2	2		
		食品衛生微生物学Ⅰ	1・2	2		
		食品衛生微生物学Ⅱ	1・2	1		
		応用動物生命科学	1・2	2		
		生殖工学技術開発論	1・2	1		
		動物遺伝技術利用論	1・2	1		
		食品栄養機能学Ⅰ	1・2	2		
		食品栄養機能学Ⅱ	1・2	2		
応用分子細胞生物学Ⅰ		1・2	2			
応用分子細胞生物学Ⅱ		1・2	2			
食料資源経済学Ⅰ		1・2	2			
食料資源経済学Ⅱ		1・2	2			
生物圏多文化セミナー A		1・2	2			
醸造資源開発学		1・2	2			
応用植物科学		1・2	2			

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 1～2:1年次から2年次で履修, 1・2:履修年次を問わない。

※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は、別途履修表を参照すること。

生物資源科学プログラム (博士課程前期)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	履修方法及び修了要件	
必修科目	研究科 共通科目	統合生命科学特別講義	1	2	12 単位	○履修方法 1 必修科目 研究科共通科目 4 単位 プログラム専門科目 8 単位 2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1 単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1 単位以上 研究科共通科目 2 単位以上 プログラム専門科目 8 単位以上 3 選択科目 他プログラム及び他研究科専門科目 6 単位以上 (自由科目は除く。履修に当たっては、指導教員グループに相談の上、履修科目を決定する。)
		生命科学研究法	1	2		
	プログラム 専門科目	生物資源科学特別演習 A	1	2		
		生物資源科学特別演習 B	1	2		
		生物資源科学特別研究	1～2	4		
選択必修科目	大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2	1	1 単位 以上	○修了要件 1 必修科目 12 単位 選択必修科目 12 単位以上 選択科目 6 単位以上 合 計 30 単位以上 2 研究指導 3 修士論文 若しくは 所定の基準による研究成果の審査及び最終試験 又は 博士論文研究基礎力審査に合格すること
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2	1		
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2	1		
		SDGsへの学問的アプローチ A	1・2	1		
		SDGsへの学問的アプローチ B	1・2	1		
		ダイバーシティの理解	1・2	1		
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2	1		
		原爆文学、芸術を通して「平和」を考える-被爆者の経験記をもとに-	1・2	1		
		Climate Change Adaptation and Mitigation	1・2	1		
		Innovation and Practice for Smart Society	1・2	1		
	キャリア 開発・デ ータリテ ラシー科 目	データリテラシー	1・2	1	1 単位 以上	
		医療情報リテラシー	1・2	1		
		キャリアマネジメント特論	1・2	2		
		ストレスマネジメント	1・2	2		
		MOT入門	1・2	1		
		情報セキュリティ	1・2	1		
		アントレプレナーシップ概論	1・2	1		
		情報科学概論Ⅰ	1・2	1		
		情報科学概論Ⅱ	1・2	1		
		理系基礎研究者養成概論	1・2	1		
	研究科 共通科目	海外学術活動演習	1・2	2	2 単位 以上	
		プログラム共同セミナー A	1・2	2		
	プログラム 専門科目	水産資源管理学Ⅰ	1・2	2	8 単位 以上	
		水産資源管理学Ⅱ	1・2	2		
		水圏動物機能学	1・2	2		
		水産動物繁殖学	1・2	1		
		水族生態学	1・2	2		
		水産生物海洋学Ⅰ	1・2	2		
		水産生物海洋学Ⅱ	1・2	2		
		植物生産機能学Ⅰ	1・2	2		
		植物生産機能学Ⅱ	1・2	2		
		家畜生産機能学Ⅰ	1・2	2		
		家畜生産機能学Ⅱ	1・2	2		
家畜飼養管理学		1・2	2			
応用動物生産論		1・2	1			
陸域生物圏フィールド科学		1・2	2			
生物圏多文化セミナー A		1・2	2			
応用動物生命科学		1・2	2			
大気水圏化学		1・2	2			
環境植物共生学		1・2	2			
生態系循環論		1・2	2			

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 1～2:1年次から2年次で履修, 1・2:履修年次を問わない。

※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は、別途履修表を参照すること。

生命環境総合科学プログラム (博士課程前期)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	履修方法及び修了要件	
必修科目	研究科 共通科目	統合生命科学特別講義	1	2	14 単位	○履修方法 1 必修科目 研究科共通科目 4単位 プログラム専門科目 10単位 2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目 2単位以上 プログラム専門科目 6単位以上 3 選択科目 他プログラム及び他研究科専門科目 6単位以上 (自由科目は除く。履修に当たっては、指導教員グループに相談の上、履修科目を決定する。)
		生命科学研究法	1	2		
	プログラム 専門科目	総合科学系演習	1・2	2		
		生命環境総合科学特別演習 A	1	2		
		生命環境総合科学特別演習 B	1	2		
		生命環境総合科学特別研究	1～2	4		
選択必修科目	大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2	1	1 単位 以上	○修了要件 1 必修科目 14単位 選択必修科目 10単位以上 選択科目 6単位以上 合 計 30単位以上 2 研究指導 3 修士論文 若しくは 所定の基準による研究成果の審査及び最終試験 又は 博士論文研究基礎力審査 に合格すること
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2	1		
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2	1		
		SDGsへの学問的アプローチ A	1・2	1		
		SDGsへの学問的アプローチ B	1・2	1		
		ダイバーシティの理解	1・2	1		
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2	1		
		原爆文学、芸術を通して「平和」を考える-被爆者の経験記をもとに-	1・2	1		
		Climate Change Adaptation and Mitigation	1・2	1		
		Innovation and Practice for Smart Society	1・2	1		
		キャリア 開発・ データリテラシー 科目	データリテラシー	1・2		
	医療情報リテラシー		1・2	1		
	キャリアマネジメント特論		1・2	2		
	ストレスマネジメント		1・2	2		
	MOT入門		1・2	1		
	情報セキュリティ		1・2	1		
	アントレプレナーシップ概論		1・2	1		
	情報科学概論Ⅰ		1・2	1		
	情報科学概論Ⅱ		1・2	1		
	理系基礎研究者養成概論		1・2	1		
	研究科 共通科目	留学生のためのキャリアマネジメント講座A	1・2	1	2 単位 以上	
		留学生のためのキャリアマネジメント講座B	1・2	1		
	プログラム 専門科目	海外学術活動演習	1・2	2	6 単位 以上	
		プログラム共同セミナーA	1・2	2		
		総合科学系概論	1・2	2		
		環境機能化学	1・2	2		
		神経細胞科学Ⅰ	1・2	2		
		神経細胞科学Ⅱ	1・2	2		
		進化生命環境学	1・2	2		
		大気水圏化学	1・2	2		
		環境植物共生学	1・2	2		
		生物多様性科学（環境科学入門）	1・2	2		
		生態系循環論	1・2	2		
		植物生産機能学Ⅰ	1・2	2		
		植物生産機能学Ⅱ	1・2	2		

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 1～2:1年次から2年次で履修, 1・2:履修年次を問わない。

※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は、別途履修表を参照すること。

基礎生物学プログラム (博士課程前期)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	履修方法及び修了要件	
必修科目	研究 共通科目	統合生命科学特別講義	1	2	14 単位	○履修方法 1 必修科目 研究科共通科目 4単位 プログラム専門科目 10単位 2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目 2単位以上 プログラム専門科目 6単位以上 (科目名称後に(*)のついた科目から4単位以上) 3 選択科目 他プログラム及び他研究科専門科目 6単位以上 (自由科目は除く。履修に当たっては、指導教員グループに相談の上、履修科目を決定する。) ○修了要件 1 必修科目 14単位 選択必修科目 10単位以上 選択科目 6単位以上 合 計 30単位以上 2 研究指導 3 修士論文 若しくは 所定の基準による研究成果の審査及び最終試験 又は 博士論文研究基礎力審査に合格すること
		生命科学研究法	1	2		
	プログラム 専門科目	先端基礎生物学研究演習 A	1	1		
		先端基礎生物学研究演習 B	1	1		
		基礎生物学特別演習 A	1	2		
		基礎生物学特別演習 B	1	2		
	基礎生物学特別研究	1～2	4			
選択必修科目	大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2	1	1 単位 以上	
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2	1		
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2	1		
		SDGsへの学問的アプローチ A	1・2	1		
		SDGsへの学問的アプローチ B	1・2	1		
		ダイバーシティの理解	1・2	1		
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2	1		
		原爆文学、芸術を通して「平和」を考える-被爆者の経験記をもとに-	1・2	1		
		Climate Change Adaptation and Mitigation	1・2	1		
		Innovation and Practice for Smart Society	1・2	1		
		キャリア 開発・デ ータリテ ラシー科 目	データリテラシー	1・2		1
	医療情報リテラシー		1・2	1		
	キャリアマネジメント特論		1・2	2		
	ストレスマネジメント		1・2	2		
	MOT入門		1・2	1		
	情報セキュリティ		1・2	1		
	アントレプレナーシップ概論		1・2	1		
	情報科学概論Ⅰ		1・2	1		
	情報科学概論Ⅱ		1・2	1		
	理系基礎研究者養成概論		1・2	1		
	留学生のためのキャリアマネジメント講座A		1・2	1		
	留学生のためのキャリアマネジメント講座B	1・2	1			
	研究 共通科目	海外学術活動演習	1・2	2	2 単位 以上	
		プログラム共同セミナーA	1・2	2		
	プログラム 専門科目	細胞生命学特論 (*)	1・2	2	4 単位 以上	6 単位 以上
		セルダイナミクス・ゲノミクス学特論 (*)	1・2	2		
自然史学特論 (*)		1・2	2			
分子生理学特論 (*)		1・2	2			
基礎生物学特別講義 (*)		1・2	1 (注)			
先端基礎生物学研究演習C		2	1			
先端基礎生物学研究演習D		2	1			

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 1~2:1年次から2年次で履修, 1・2:履修年次を問わない。

※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は、別途履修表を参照すること。

(注) 基礎生物学特別講義は、2単位までプログラム専門科目の修了要件単位として認める。

数理生命科学プログラム (博士課程前期)

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数	履修方法及び修了要件	
必修科目	研究科共通科目	統合生命科学特別講義		1	2	12単位	○履修方法 1 必修科目 研究科共通科目 4単位 プログラム専門科目 8単位
		生命科学研究法		1	2		
	プログラム専門科目	数理計算理学概論		1	2		
		生命理学概論		1	2		
	数理生命科学特別研究		1～2	4			
	大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2	1	1単位以上	2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目 2単位以上 プログラム専門科目 8単位以上 (数理計算理学特別演習A・B 又は 生命理学特別演習A・B の4単位を含む)
			Japanese Experience of Social Development-Economv. Infrastructure, and Peace	1・2	1		
			Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2	1		
SDGsへの学問的アプローチA			1・2	1			
SDGsへの学問的アプローチB			1・2	1			
ダイバーシティの理解			1・2	1			
SDGsへの実践的アプローチ			1・2	1			
原爆文学、芸術を通して「平和」を考える-被爆者の経験記をもとに-			1・2	1			
Climate Change Adaptation and Mitigation			1・2	1			
Innovation and Practice for Smart Society			1・2	1			
大学院共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2	1	1単位以上	3 選択科目 他プログラム及び他研究科専門科目 6単位以上 (履修に当たっては、指導教員グループに相談の上、履修科目を決定する。)	
		医療情報リテラシー	1・2	1			
		キャリアマネジメント特論	1・2	2			
		ストレスマネジメント	1・2	2			
		MOT入門	1・2	1			
		情報セキュリティ	1・2	1			
		アントレプレナーシップ概論	1・2	1			
		情報科学概論Ⅰ	1・2	1			
		情報科学概論Ⅱ	1・2	1			
		理系基礎研究者養成概論	1・2	1			
		留学生のためのキャリアマネジメント講座A	1・2	1			
		留学生のためのキャリアマネジメント講座B	1・2	1			
選択必修科目	研究科共通科目	海外学術活動演習		1・2	2	2単位以上	○修了要件 1 必修科目 12単位 選択必修科目 12単位以上 選択科目 6単位以上 合計 30単位以上
		プログラム共同セミナーA		1・2	2		
	プログラム専門科目	数理計算理学特別演習A		1	2	4単位	2 研究指導 3 修士論文 若しくは 所定の基準による研究成果の審査及び最終試験 又は 博士論文研究基礎力審査に合格すること
		数理計算理学特別演習B		1	2		
		生命理学特別演習A		1	2		
		生命理学特別演習B		1	2		
		数理モデリングA		1・2	2	8単位以上 4単位以上	
		数理モデリングB		1・2	2		
		数理モデリングC		1・2	2		
		数理モデリングD		1・2	2		
		計算数理科学A		1・2	2		
		計算数理科学B		1・2	2		
		数理生物学		1・2	2		
		応用数理学A		1・2	2		
		応用数理学B		1・2	2		
		大規模計算・データ科学		1・2	2		
		分子遺伝学		1・2	2		
		分子形質発現学		1・2	2		
		分子生物物理学		1・2	2		
		プロテオミクス		1・2	2		
		プロテオミクス実験法・同実習		1・2	2		
		生物化学A		1・2	2		
		生物化学B		1・2	2		
		自己組織化学A		1・2	2		
		自己組織化学B		1・2	2		
		数理生命科学特別講義A		1・2	1(注)		
		数理生命科学特別講義B		1・2	1(注)		
		数理生命科学特別講義C		1・2	1(注)		
		数理生命科学特別講義D		1・2	1(注)		
自由科目	数理計算理学特論A		1・2	2		◎自由科目について 自由科目は、修了要件上のプログラム専門科目や他プログラム専門科目に加えることができないことに注意すること。なお、教育職員免許状を取得する場合、数理計算理学特論A～Dは数学、生命理学特論A～Dは理科の「教科及び教科の指導法に関する科目」として、それぞれの教科の専修免許状に必要な修得単位数に加えることができる。	
	数理計算理学特論B		1・2	2			
	数理計算理学特論C		1・2	2			
	数理計算理学特論D		1・2	2			
	生命理学特論A		1・2	2			
	生命理学特論B		1・2	2			
	生命理学特論C		1・2	2			
	生命理学特論D		1・2	2			

※配当年次の記載 1：1年次に履修， 2：2年次に履修， 1～2：1年次から2年次に履修， 1・2：履修年次を問わない。

※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は、別途履修表を参照すること。

(注) 数理生命科学特別講義A～Dは、同じ科目の単位を修得しても、講義内容が異なる場合には修了要件単位として認める。

生命医科学プログラム（博士課程前期）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	履修方法及び修了要件	
必修科目	研究科共通科目	統合生命科学特別講義 生命科学研究法	1 1	2 2	13 単位	○履修方法 1 必修科目 研究科共通科目 4単位 プログラム専門科目 9単位 2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目 2単位以上 プログラム専門科目 生命科学科目 2単位以上 医科学科目 2単位以上 3 選択科目 自・他プログラム及び他研究科専門科目 9単位以上(注3) (自由科目は除く。履修に当たっては、指導教員グループに相談の上、履修科目を決定する。)
	研究基盤科目	生命医科学セミナーA(注1)	1	1		
	研究目実践	生命医科学特別演習A	1	2		
		生命医科学特別演習B	1	2		
		生命医科学特別研究	1～2	4		
選択必修科目	大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2	1	○修了要件 1 必修科目 13単位 選択必修科目 8単位以上 選択科目 9単位以上 合 計 30単位以上 2 研究指導 3 修士論文 若しくは 所定の基準による研究成果の審査及び最終試験 又は 博士論文研究基礎力審査に合格すること
			Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2	1	
			Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2	1	
			SDGsへの学問的アプローチA	1・2	1	
			SDGsへの学問的アプローチB	1・2	1	
			ダイバーシティの理解	1・2	1	
			SDGsへの実践的アプローチ	1・2	1	
			原爆文学、芸術を通して「平和」を考える-被爆者の経験記をもとに-	1・2	1	
			Climate Change Adaptation and Mitigation	1・2	1	
			Innovation and Practice for Smart Society	1・2	1	
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	データリテラシー	1・2	1	
			医療情報リテラシー	1・2	1	
			キャリアマネジメント特論	1・2	2	
			ストレスマネジメント	1・2	2	
			MOT入門	1・2	1	
			情報セキュリティ	1・2	1	
			アントレプレナーシップ概論	1・2	1	
			情報科学概論Ⅰ	1・2	1	
			情報科学概論Ⅱ	1・2	1	
			理系基礎研究者養成概論	1・2	1	
	研究科共通科目	海外学術活動演習	海外学術活動演習	1・2	2	
			プログラム共同セミナーA	1・2	2	
	プログラム専門科目	生命科学科目	先端生命技術概論	1	2	
			疾患モデル生物概論	1	2	
			生命医科学セミナーB(注1)	2	1	
			細胞生命学特論	1・2	2	
			セルダイナミクス・ゲノミクス学特論	1・2	2	
			細胞機能科学A	1・2	2	
			細胞機能科学B	1・2	2	
			数理生物学	1・2	2	
			食品栄養機能学Ⅰ	1・2	2	
			食品衛生微生物学Ⅰ	1・2	2	
		医科学科目	応用動物生命科学	1・2	2	
			応用分子細胞生物学Ⅰ	1・2	2	
			家畜生産機能学Ⅰ	1・2	2	
			生命医科学特別講義	1・2	1(注2)	
		医科学科目	人体の構造	1	2	2 単位 以上
			人体の機能	1	2	
			病因病態学	1	2	
			生体防御学	1	1	
			総合薬理学	1	1	
			医療政策・国際保健概論	1	1	
			予防医学・健康指導特論A	1	1	
			予防医学・健康指導特論B	1	1	
		医科学科目	生命・医療倫理学A	1	1	2 単位 以上
			生物統計学・臨床統計学基礎論	1	1	

※配当年次の記載 1：1年次に履修， 2：2年次に履修， 1～2：1年次から2年次で履修， 1・2：履修年次を問わない。

※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は、別途履修表を参照すること。

(注1) 生命医科学セミナーAとBは同じ年次で履修できない。ただし、早期修了を希望する場合は、同じ年次での履修を可とする。
履修登録に先立ち、理学系支援室（もしくは学務委員）に相談すること。

(注2) 生命医科学特別講義は、2単位までプログラム専門科目の修了要件単位として認める。

(注3) 選択科目に、ゲノム編集先端人材育成プログラム専門科目を6単位まで含めることができる。

8. 履修上の注意（博士課程前期）

(1) 海外学術活動演習

内 容 等：目的に沿った海外学術活動，海外研究者との共同研究を実施した場合に，申請することができる。

(目的)

国際的視野，グローバルコミュニケーション能力向上のため，海外での学術活動や海外研究者との共同研究を行う。国際的なシンポジウムや国際会議での外国語による発表，海外学術機関，又は民間企業における短期の学術研修，海外からの研究者との外国語による共同研究等を対象とする。

評 価：単位認定申請書に基づき，各プログラムで成績を評価する。

提出書類等：

1. 単位認定申請書(学生便覧 32 頁)
2. 海外学術活動報告書
3. 学会要旨等，参考となるもの

実施手順：

1. 主指導教員と相談の上，国際学会等での発表，海外での学術活動や国内での海外研究者との共同研究等を実施する。
2. 学術活動や研究は，正規の授業などに差し障りのない範囲で実施する。実施期間は原則2日以上とする。
3. 学会や学術活動・研究等の日程，実施場所，相手機関名，相手研究者の所属・氏名，内容，主指導教員による評価（発表内容，ディスカッションの内容，学術活動や研究の目的，目的達成度，得られた成果等）等，必要事項を記載した報告書とともに提出する。
4. 指導教員，副指導教員等が内容と成果を客観的に評価し，国際化に資するレベルに達している場合はその到達度に応じて成績評価をおこなう。成績は，本演習の担当教員の下で認定する。

(2) プログラム共同セミナーAについて

プログラム共同セミナーは、統合生命科学研究科の科目であり、博士課程前期の学生はプログラム共同セミナーAを履修します。

プログラム共同セミナーの履修については、下記の「統合生命科学研究科プログラム共同セミナー実施要領」を参考にしてください。その他、聴講にあたっては、指導教員の指示、各セミナーのガイダンスに従ってください。

統合生命科学研究科プログラム共同セミナー実施要領

- ① プログラム共同セミナーは、各プログラムで企画・実施する。
学生は、7プログラムが実施するプログラム共同セミナーを少なくとも、それぞれ1回以上聴講することが望ましい。
- ② プログラム共同セミナーの実施日時等は、掲示や研究科のホームページ等にて案内する。
- ③ プログラム共同セミナーを聴講した学生は、聴講後、聴講届にスタンプを受け、プログラム共同セミナー聴講届を15回分以上まとめて単位認定申請書(学生便覧33頁)と共に指導教員へ提出する。
- ④ 15回以上のセミナーの聴講をもって単位認定(2単位)資格とする。
- ⑤ プログラム共同セミナーの認定は、学務委員会が行う。
- ⑥ 学会等での講演会(研究科細則第10条による教育方法の特例を適用されるものについては、企業内の講演会・セミナーを含む。)の聴講をもってプログラム共同セミナーに替えることができる。

この場合、学会等での講演会が通常のプログラム共同セミナーの何回分に相当するかについては、指導教員の判断に委ねるが、学生はその回数に相当する受講報告を提出しなければならない。

9. 修士論文の審査と最終試験について

広島大学大学院統合生命科学研究科修士論文審査並びに最終試験実施要項

(2019.4.1 制定)

(修士論文題目届)

第1 修士論文を提出する予定の学生は、主指導教員の承認を得て、3月修了予定者は当該年度の10月15日までに、9月修了予定者は当該年度の4月15日までに、修士論文題目を研究科長（所属するプログラムを担当する支援室（大学院課程担当等））に提出する。

(修士論文提出)

第2 論文提出期限は、3月修了予定者は1月25日、9月修了予定者は7月25日の午後5時とする。ただし、期限日が土曜日又は国民の祝日に関する法律に規定する休日にあたる場合は、その前日とし、日曜日にあたる場合は前々日とする。

2 論文は、主指導教員の承認を得て研究科長（所属するプログラムを担当する支援室（大学院課程担当等））に提出するものとする。

3 研究科長は、受理した論文を論文審査委員会に付託するものとする。

(論文審査)

第3 論文審査委員会は、主指導教員並びに主指導教員の推薦により、研究科代議員会で審議・承認された教員2名以上をもって編成する。

2 論文審査委員会は、論文の審査に当たり、論文に評価（概評）を付し、合格、不合格を決定する。

(最終試験)

第4 最終試験は、論文を中心にして口述試験により行うことを原則とし、論文（最終版）の提出をもって終了とする。

2 最終試験は、3月修了予定者については2月22日、9月修了予定者については8月22日までに終了するものとする。

(修士論文（最終版）提出)

第5 論文（最終版）の提出期限は、3月修了予定者は2月22日、9月修了予定者は8月22日の午後5時とする。ただし、期限日が土曜日又は国民の祝日に関する法律に規定する休日にあたる場合は、その前日とし、日曜日にあたる場合は前々日とする。

2 論文（最終版）は、主指導教員の承認を得て研究科長（所属するプログラムを担当する支援室（大学院課程担当等））に提出するものとする。

3 提出された論文（最終版）は、所属するプログラムを担当する支援室（大学院課程担当等）がとりまとめて保管するものとする。

(修士論文学術情報リポジトリ登録)

第6 希望者は、修士論文を学術情報リポジトリに登録できるものとする。

2 学術情報リポジトリ登録にかかわる事項は別に定める。

(修士論文発表会)

第7 修士論文発表会は、研究科の教員並びに学生に公表して行う。なお知的財産権に関わる内容の場合は、指導教員の申し出により非公開とすることができる。

10. 修士論文等作成から提出までの日程及び手続きについて

●印の項目について手続等をする事。(○印の項目は指導教員、支援室(大学院課程担当等)が処理する項目)

※ 提出期限等は、年度によって変更する場合があるので、事前に研究科HP及び掲示等(Myもみじの掲示含む)で必ず確認すること。

項 目	提出先等	提出期限等		備 考
		3月修了	9月修了	
●修士論文中間発表会		12月頃 (1年次)	12月頃 (2年次)	日程等別途通知
●修士論文題目提出 (修士論文審査委員の推薦については主指導教員と相談し入力すること。)	所属するプログラムを担当する支援室(大学院課程担当等)	10月15日	4月15日	早期修了希望者は、早期修了申請書も併せて提出すること。
○修士論文審査委員の承認	研究科 代議員会	11月中旬	5月中旬	
●修士論文要旨提出 (A4版2枚以内にまとめること。) ○修士の学位論文の提出に係る確認書	所属するプログラムを担当する支援室(大学院課程担当等)	1月25日	7月25日	メール添付により、支援室・審査委員へ送付する
●修士論文提出				
●修士論文発表会 ●最終試験 (プログラムの指示による)		2月中旬	8月上旬	日程等別途通知
●修士論文及び要旨(各最終版)提出 (プログラムの指示による) ※1	所属するプログラムを担当する支援室(大学院課程担当等)	2月22日	8月22日	メール添付により、支援室へ送付する
○修士論文審査・最終試験結果報告書提出	所属するプログラムを担当する支援室(大学院課程担当等)	2月22日	8月22日	
○修了判定	プログラム 教員会等	2月下旬	8月下旬	
	研究科 代議員会	3月上旬	9月上旬	

注) 1. ここに定める期限は、当該期日の午後5時とする。

ただし、期限日が土曜日又は国民の祝日に関する法律に規定する休日に当たるときはその前日とし、日曜日にあたるときは前々日とする。

2. 提出期限等については、変更することがある。

3. 早期修了予定者は、早期修了申請書を修士論文題目と共に提出すること。

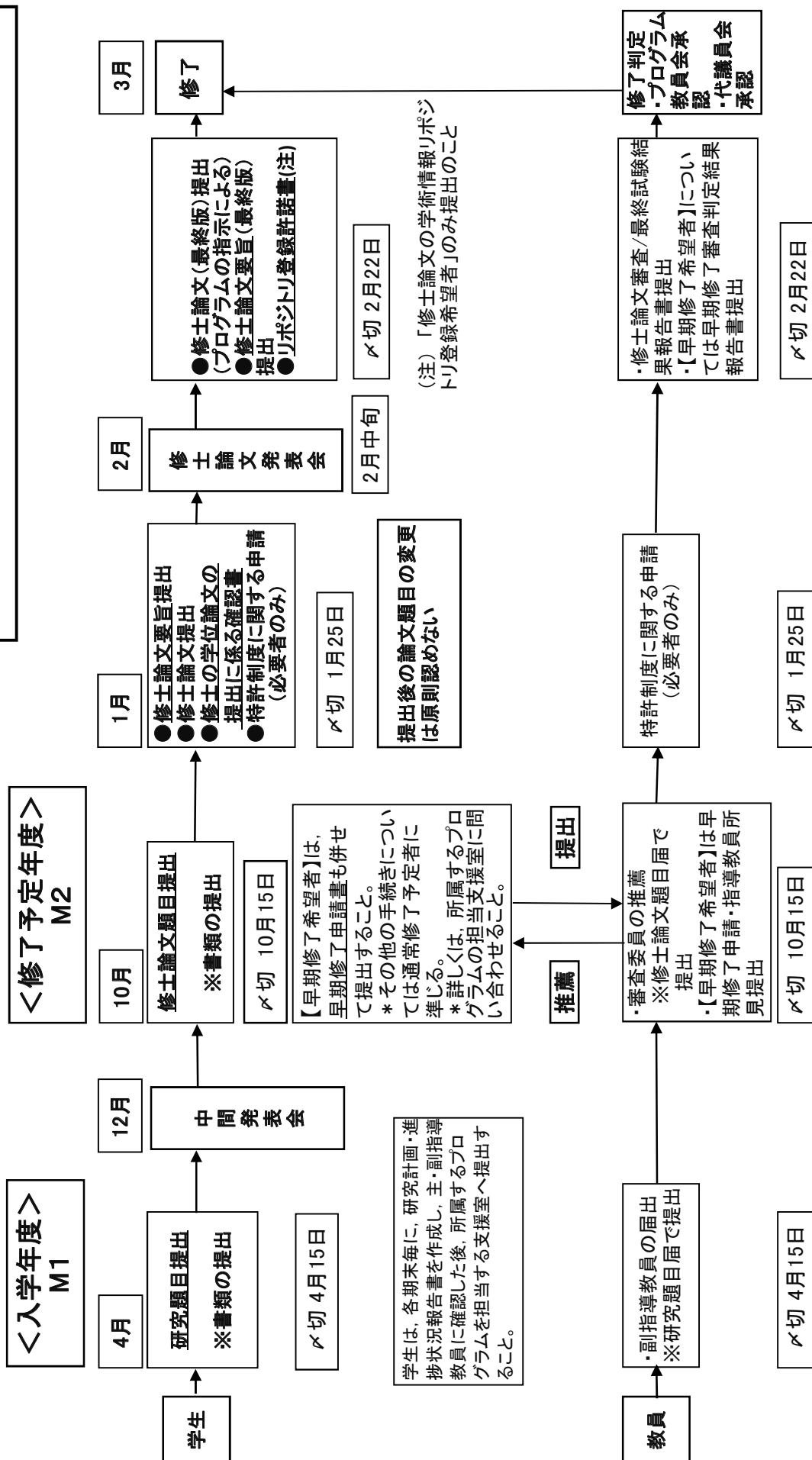
4. ※1で、学術情報リポジトリ登録を希望する者は、修士論文要旨及び修士論文の電子データ並びに「学術情報リポジトリ登録承諾書」を提出すること。

5. 各期末毎に、研究計画・進捗状況報告書を作成し、主・副指導教員へ確認し、所属するプログラムを担当する支援室へ提出すること。

修士論文の手続きについて

《4月入学 3月修了》

※提出物提出先: 所属するプログラムを担当する支援室
 ※下線の付いている書類の様式はHPからダウンロードできます。



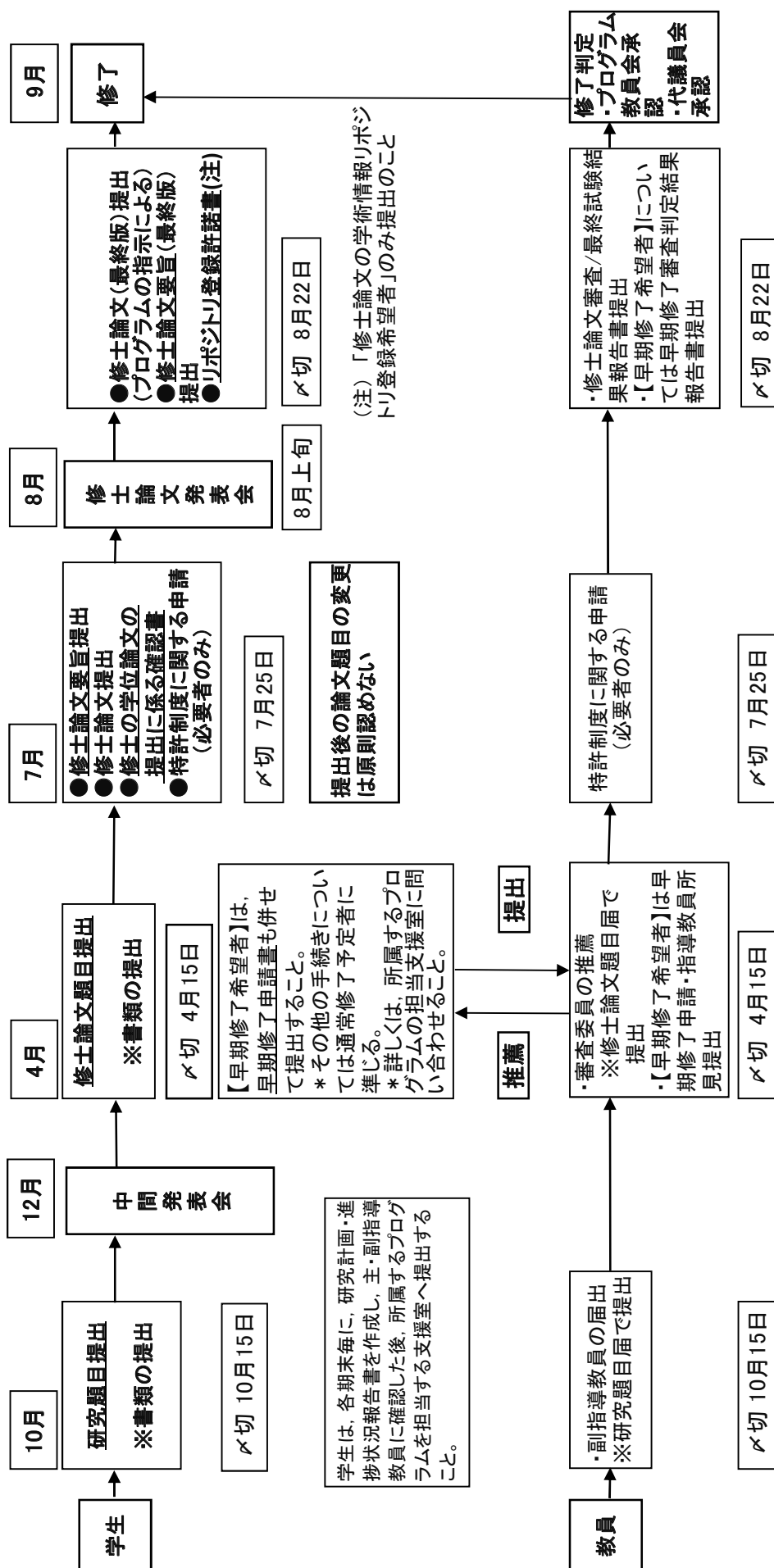
修士論文の手続きについて

《10月入学 9月修了》

<入学年度>
M1

<修了予定年度>
M2

※提出物提出先:所属するプログラムを担当する支援室
※下線の付いている書類の様式はHPからダウンロードできます。



修士論文等の提出について（作成要領）

（2019.4.1 制定）

1. 修士論文要旨（修士論文発表会レジメ）の提出について

- （１） 提出〆切：３月修了予定者 １月２５日 午後５時
 ９月修了予定者 ７月２５日 午後５時
 - （２） 提出場所：所属するプログラムを担当する支援室(大学院課程担当等)，主指導教員を含めた審査委員
 - （３） 提出方法：メールにより電子媒体で提出
 - （４） 作成方法：
 - ① 所定の様式（Ａ４判用紙２枚以内（縦位置左横書き））を統合生命科学研究科ホームページからダウンロードし，パソコン等で作成する。（ページ番号は記入しないこと。）
 - ② 記述内容は自由形式とし，プログラム毎に規定する。
 - ③ 特許申請等のため公開発表が難しい場合は予め申し出る。
 - ④ 提出された要旨はそのまま修士論文発表会要旨集として使用するため，図版を入れる場合は，印刷しても鮮明にわかるようなものにする。
- ※ 既に提出した「修士論文題目届」から題目の変更がある場合は，必ず申し出ること。

2. 修士論文の提出について

- （１） 提出〆切：３月修了予定者 １月２５日 午後５時
 ９月修了予定者 ７月２５日 午後５時
- （２） 提出場所：所属するプログラムを担当する支援室(大学院課程担当等)，主指導教員を含めた審査委員
- （３） 提出方法：メールにより電子媒体で提出
- （４） 作成方法：
 - ① 論文の様式は，Ａ４判用紙（縦位置左横書き）を用いる。
 - ② 表紙及び標題紙等は別紙１－１，別紙１－２の要領で作成すること。（背表紙は不要）

3. 修士論文（最終版）の提出について（プログラムの指示による。）

- （１） 提出〆切：３月修了予定者 ２月２２日 午後５時
 ９月修了予定者 ８月２２日 午後５時
 - （２） 提出場所：所属するプログラムを担当する支援室(大学院課程担当等)
 - （３） 提出方法：メールにより電子媒体で提出
 - （４） 作成方法：
 - ① 論文の様式は，Ａ４判用紙（縦位置左横書き）を用いる。
 - ② 表紙及び標題紙等は別紙１－１，別紙１－２の要領で作成すること。（背表紙は不要）
- ※ 既に提出した修士論文要旨に修正があった場合は，要旨の最終版も併せて提出すること。

4. 学術情報リポジトリ登録に関する書類等の提出について（希望者のみ）

（１） 提出〆切：３月修了予定者 ２月２２日 午後５時

９月修了予定者 ８月２２日 午後５時

（２） 提出場所：所属するプログラムを担当する支援室(大学院課程担当等)

（３） 提出物及び部数：

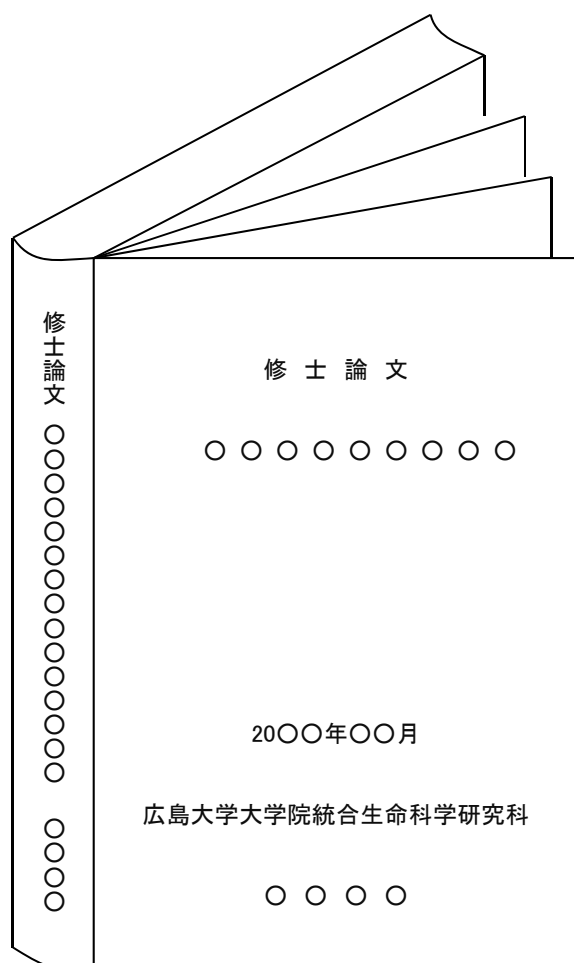
① 修士論文要旨及び修士論文（最終版）の電子データ

② 学術情報リポジトリ登録許諾書（主指導教員の署名が必要） １部

※上記は、広島大学学術情報リポジトリ登録（インターネット無償公開）を希望し、かつ主指導教員の承認が得られる者のみ提出すること。

注）ここに定める期限日が土曜日又は国民の祝日に関する法律に規定する休日に当たるときはその前日とし、日曜日にあたるときは前々日とする。

(修士論文 表紙 及び 標題紙 の書き方)



[標題紙]

表紙と同様(別紙1－2参照)に記載する。ただし、研究科名の後にプログラム名を記載する。

[表紙]

修士論文、論文題目、年月、研究科名及び氏名を別紙1－2のとおり作成する。

本文が和文の場合は、全てを和文で記載し、本文が英文の場合は、全てを英文で記載する。

修士論文の英訳は Master Thesis とする。

論文題目の位置は、表紙の上部1／3の範囲に納める。

年月は、審査終了年月(3月修了の場合は3月、9月修了の場合は9月)とする。

年月、研究科名、氏名は表紙の下部1／3の範囲に納める。

[背表紙]

冊子化する場合の参考。

支援室へ提出する際は不要。

別紙1－2

(1)本文が和文の場合

[表紙]

修士論文
統合生命科学に関する研究
20〇〇年3月(又は, 9月) 広島大学大学院統合生命科学研究科 広島一郎

[標題紙]

修士論文
統合生命科学に関する研究
20〇〇年3月(又は, 9月) 広島大学大学院統合生命科学研究科 〇〇〇〇プログラム 広島一郎

(2)本文が英文の場合

[表紙]

Master Thesis
Studies on Integrated Life Science
Ichiro Hiroshima Graduate School of Integrated Sciences for Life Hiroshima University March (or September) 20〇〇

[標題紙]

Master Thesis
Studies on Integrated Life Science
Ichiro Hiroshima Program of 〇〇〇〇〇 Graduate School of Integrated Sciences for Life Hiroshima University March (or September) 20〇〇

様式集（修士）

研究題目届(M)

Notification of the Research Title

		Year 年	Month 月	Date 日	提出
学 生 番 号 Student ID Number	M	ふりがな 氏 名 Katakana Name			
プログラム名 Program	☐ 生物工学 Biotechnology ☐ 食品生命科学 Food and AgriLife Science ☐ 生物資源科学 Bioresource Science ☐ 生命環境総合科学 Life and Environmental Sciences ☐ 基礎生物学 Basic Biology ☐ 数理生命科学 Mathematical and Life Sciences ☐ 生命医科学 Biomedical Science				
研 究 題 目 (外国語の場合は、 和訳を付すこと。) Research Title (Japanese Title)					
取得済み教員免許状					
取得予定の教員免許状					

<以下は主指導教員が記入> The followings are written by supervisor.

指 導 教 員 氏 名	
主指導教員 氏 名	確認印 又は サイン 研究指導計画を策定し 副指導教員と共有して ☐ 学生に明示
副指導教員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]
副指導教員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]
副指導教員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]
副指導教員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]

指導教員は、本学の教授、准教授又は講師を2名以上含めること。
 副指導教員は、所属プログラムを担当する教員1名以上と、所属プログラムと異なるプログラムを担当する教員を1名以上含むこと。他研究科・他大学所属の場合は、所属・職名を明記すること。
 指導教員に、博士課程前期学生募集要項の主指導教員一覧表に記載されている教員が3名以上含まれない場合は、プログラム長の所見を要する（任意様式）。
 研究指導計画書は、依頼があれば直ちに提出すること。

提出先：所属するプログラムを担当する支援室(大学院課程担当等)

提出〆切：4月入学の場合／4月15日, 10月入学の場合／10月15日

単位認定申請書
Application for Recognition of Credits

年 月 日
Date: (Year) (Month) (Day)

大学院統合生命科学研究科長 殿
To: The Dean of the Graduate School of Integrated Sciences for Life

統合生命科学研究科 プログラム
Graduate School of Integrated Sciences for Life
Program of
学生番号
Student Number
氏 名
Name

認定科目の単位等の認定を受けたいので、報告書等を添付のうえ、申請します。
I hereby apply for the recognition of the credits for designated courses, with reports or other required documents attached hereto.

該当科目に○ Put a circle in the appropriate box.	認 定 科 目 Course	備 考 Remarks
	海外学術活動演習 Exercises in International Academic Studies	博士課程前期 Master's Course
	海外学術研究 Academic Research Overseas	博士課程後期 Doctoral Course
	生物・生命系長期インターンシップ Long-term Internship	〃

主指導教員氏名 Name of Academic Supervisor	Seal or Signature		
〈単位認定にあたっての意見〉 (Comments regarding certification of credits)			
主指導教員評価 Evaluation by Academic Supervisor	秀 優 良 可 Excellent, Very Good, Good, Fair	学務委員会認定 Certification of Academic Affairs Committee	

プログラム共同セミナー単位認定申請書
Application for Recognition of Credit for "Science Seminar"

年 月 日
Date: (Year) (Month) (Day)

大学院統合生命科学研究科長 殿
To: The Dean of the Graduate School of Integrated Sciences for Life

統合生命科学研究科
Graduate School of Integrated Sciences for Life
Program of
学生番号 / Student ID
氏 名 / Name

プログラム
Seal or Signature

プログラム共同セミナーの単位認定を受けたいので、聴講届を添付のうえ、申請します。
I hereby apply for the recognition of the credits for Science Seminar, with Participation Certificate or other required documents attached hereto.

回数 Number	日付(年月日) Date (YY/MM/DD)	講師名 Lecturer's Name	世話プログラム Facilitated Program (適切な番号に ○をつける. Put a circle appropriate number.)
1			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
2			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
3			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
4			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
5			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
6			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
7			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
8			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
9			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
10			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
11			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
12			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
13			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
14			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
15			1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

1 :生物工学(Biotechnology), 2 :食品生命科学(Food and AgriLife Science), 3 :生物資源(Bioresource Science),
4 :生命環境総合科学(Life and Environmental Sciences), 5 :基礎生物学(Basic Biology), 6 :数理生命科学
(Mathematical and Life Sciences), 7 :生命医科学(Biomedical Science), 8 :その他(Others)

注意 : 1 ~ 7 のセミナーは最低一つずつ含んでいることが望ましい。

Note: at least one seminar from each program (1-7) is required.

主指導教員氏名 Name of Academic Supervisor	学務委員会認定 Certification of Academic Affairs Committee
Seal or Signature	

修 士 論 文 題 目 届

Notification of the Master's Thesis Title

Year Month Date
年 月 日 提出

学 生 番 号 Student ID Number	M	ふりがな 氏 名 Katakana Name	
プログラム名 Program		学位の種類 Degree	
☐ 生物工学 Biotechnology		☐ 修士（工学） Master of Engineering	☐ 修士（学術） Master of Philosophy
☐ 食品生命科学 Food and AgriLife Science ☐ 生物資源科学 Bioresource Science ☐ 生命環境総合科学 Life and Environmental Sciences		☐ 修士（農学） Master of Agriculture	
☐ 基礎生物学 Basic Biology ☐ 数理生命科学 Mathematical and Life Sciences ☐ 生命医科学 Biomedical Science		☐ 修士（理学） Master of Science	
日本語題目 Japanese Title			
英語題目 English Title			
執筆言語 Language	☐ 日本語 Japanese ☐ 英語 English		

<以下は主指導教員が記入> The followings are written by supervisor.

修 士 論 文 審 査 委 員 の 推 薦	
下記のとおりに推薦します。	主指導教員 主査 氏名 確認印 又は サイン
委 員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]
委 員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]
委 員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]
委 員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]

注）論文審査委員会は、主指導教員及び主指導教員に推薦された教員2名以上（うち1名以上は所属プログラムと異なるプログラムを担当する教員）によって構成されます。

提出メ切は（9月修了の場合：4月15日まで、3月修了の場合：10月15日まで）

修 士 論 文 要 旨
(Summary of Master Thesis)

学 生 番 号 Student ID Number	M	氏 名 Name	
プログラム Program	Program of プログラム	主指導教員 Supervisor	
日本語題目 Japanese Title	□※		
英語題目 English Title	□※		

※論文題目が，修士論文題目届で提出したものと異なる場合は，□ を ■ にすること。

※If title is different from the one submitted in "Notification of the Master's Thesis Title", change

□ to ■.

年 月 日

広島大学大学院統合生命科学研究科長 殿

学 生 番 号

プログラム

氏 名

印／サイン

早 期 修 了 申 請 書

広島大学大学院規則第43条に基づき、博士課程前期早期修了の認定を申請いたします。

早期修了希望時期

年 月

早期修了申請・指導教員所見

年 月 日

学生番号	M	ふりがな 氏 名	
プログラム			
早期修了 希望時期	年 月 希望	指導教員	印／サイン

修士論文・卒業論文の学術情報リポジトリ登録許諾書

年 月 日

広島大学図書館長 殿

私が執筆した下記の(修士論文・卒業論文)の全文について、広島大学学術情報リポジトリを通してインターネット上で無償公開することを許可します。

記

本人記入欄

(フリガナ) 氏名(自署)		
論文題目		
		年度 (学部・研究科)(卒業・修士)論文
連	住所	
絡	電話	
先	電子メール	

指導教員記入欄

氏名(自署)	
--------	--

<注意事項>

1. この許諾書は、修士論文・卒業論文のインターネット公開のため、著作権のうち複製権・公衆送信権について許可を与えていただくものです。
2. この許諾に関しては、指導教員の承認が必要です。
3. 広島大学学術情報リポジトリではデータの公開にあたり、データの複製(印刷・ダウンロード等)は、調査研究・教育または学習を目的としている場合に限定されることを明示いたします。
4. あなたの論文が既に出版社から公表予定(或いはされている)場合や、特許・実用新案等の申請予定がある場合は、下記までご相談ください。
5. この許諾書に記載いただいた事項は、目的以外の用途には使用いたしません。

連絡先:

739-8512 東広島市鏡山 1-2-2
 広島大学図書館 図書学術情報企画グループ 学術情報企画主担当
 TEL :082-424-6228(内線 東広島 6228)
 E-Mail: tosho-kikaku-jyoho@office.hiroshima-u.ac.jp

年 月 日

修士の学位論文の提出に係る確認書

広島大学長 殿

研究科： _____

専攻等： _____

学年： _____ 学生番号： _____

氏名（自署）： _____

修士の学位論文の提出に当たり、以下の全ての事項を確認しました。

論文題目： _____

確認事項（チェックを入れる。）

- ☐ 所定の研究倫理教育プログラムを受講し、研究倫理に関し必要な事項を理解したこと。
- ☐ 研究上の不正行為（捏造、改ざん、盗用等）を行っていないこと。
- ☐ 著作権の侵害行為を行っていないこと。（以下のア～エを満たす、適切な方法で引用を行っている。または、学位論文執筆に関して著作権者の許諾を得ている。）
 - ア 既に公表されている著作物であること
 - イ 「公正な慣行」に合致すること
 - ・引用を行う「必然性」があること
 - ・カギ括弧などにより「引用部分」が明確になっていること
 - ウ 研究の引用の目的上「正当な範囲内」であること
 - ・引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であること
 - ・引用される分量が必要最小限の範囲内であること
 - エ 「出所の明示」をすること
- ☐ プライバシーを保護すべき研究対象者が存在しないこと。または、研究対象者のプライバシーが保護されていること。（対象者が研究対象となることを了解しており、公表方法等にも合意している。）

上記記載事項を確認しました。

指導教員

職名： _____

氏名（自署）： _____

確認年月日： _____ 年 月 日

博士課程後期（博士）

11. 授業科目と履修方法について

別表第1（細則第4条関係）
 生物工学プログラム（博士課程後期）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	履修方法及び修了要件	
必修科目	プログラム専門科目	統合生命科学特別研究	1～3	12	12単位	○履修方法 1 必修科目 プログラム専門科目 12単位 2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目 4単位以上 プログラム専門科目 2単位以上
選択必修科目	持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGsアイディアマイニング学生セミナー	1・2・3	1	1単位以上	○修了要件 1 必修科目 12単位 選択必修科目 8単位以上 合計 20単位以上 2 研究指導 3 博士論文 博士論文の審査及び最終試験に合格すること
		SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3	1		
		普遍的平和を目指して	1・2・3	1		
		原爆文学、戦争文学と平和-被爆者と強制収容所囚人の経験記をもとに-	1・2・3	1		
	キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス	1・2・3	2		
		パターン認識と機械学習	1・2・3	2		
		データサイエンティスト養成	1・2・3	1		
		医療情報リテラシー活用	1・2・3	1		
		リーダーシップ手法	1・2・3	1		
		キャリアマネジメントセミナー	1・2・3	1		
		イノベーション演習	1・2・3	2		
		長期インターンシップ	1・2・3	2		
		事業創造概論	1・2・3	1		
	研究共通科目	生命科学研究計画法	1	2		
		海外学術研究	1・2・3	2		
		生命科学キャリアデザイン開発	1	2		
		生物・生命系長期インターンシップ	1・2・3	2		
		プログラム共同セミナーB	1・2・3	2		
	プログラム専門科目	先端生物工学特別講義A	1・2・3	1		
		先端生物工学特別講義B	1・2・3	1		
		先端生物工学特別講義C	1・2・3	1		
		先端生物工学特別講義D	1・2・3	1		

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 3:3年次に履修, 1～3:1年次から3年次で履修, 1・2・3:履修年次を問わない
 ※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は, 別途履修表を参照すること

食品生命科学プログラム（博士課程後期）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	履修方法及び修了要件
必修科目	プログラム専門科目	統合生命科学特別研究	1～3	12	○履修方法 1 必修科目 プログラム専門科目 12単位 2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目と プログラム専門科目から 6単位以上 ○修了要件 1 必修科目 12単位 選択必修科目 8単位以上 合計 20単位以上 2 研究指導 3 博士論文 博士論文の審査及び最終試験に合格すること
選択必修科目	持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGsアイディアマイニング学生セミナー	1・2・3	1	
		SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3	1	
		普遍的平和を目指して	1・2・3	1	
		原爆文学、戦争文学と平和-被爆者と強制収容所囚人の経験記をもとに-	1・2・3	1	
	大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス	1・2・3	2	
		パターン認識と機械学習	1・2・3	2	
		データサイエンティスト養成	1・2・3	1	
		医療情報リテラシー活用	1・2・3	1	
		リーダーシップ手法	1・2・3	1	
		キャリアマネジメントセミナー	1・2・3	1	
		イノベーション演習	1・2・3	2	
		長期インターンシップ	1・2・3	2	
		事業創造概論	1・2・3	1	
	研究共通科目	生命科学研究計画法	1	2	
		海外学術研究	1・2・3	2	
		生命科学キャリアデザイン開発	1	2	
		生物・生命系長期インターンシップ	1・2・3	2	
		プログラム共同セミナーB	1・2・3	2	
	プログラム専門科目	生物圏多文化セミナーB	1・2・3	2	

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 3:3年次に履修, 1～3:1年次から3年次で履修, 1・2・3:履修年次を問わない
 ※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は, 別途履修表を参照すること

生物資源科学プログラム（博士課程後期）

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数	履修方法及び修了要件	
必修科目	プログラム専門科目		統合生命科学特別研究	1～3	12	12単位	○履修方法 1 必修科目 プログラム専門科目 12単位 2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目と プログラム専門科目から 6単位以上
	選択必修科目	持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGsアイデアマイニング学生セミナー	1・2・3	1	1単位以上	
SDGsの観点から見た地域開発セミナー			1・2・3	1			
普遍的平和を目指して			1・2・3	1			
原爆文学、戦争文学と平和-被爆者と強制収容所囚人の経験記をもとに-			1・2・3	1			
大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー科目		データサイエンス	1・2・3	2	1単位以上	○修了要件 1 必修科目 12単位 選択必修科目 8単位以上 合 計 20単位以上 2 研究指導 3 博士論文 博士論文の審査及び最終試験に合格すること	
		パターン認識と機械学習	1・2・3	2			
		データサイエンティスト養成	1・2・3	1			
		医療情報リテラシー活用	1・2・3	1			
		リーダーシップ手法	1・2・3	1			
		キャリアマネジメントセミナー	1・2・3	1			
		イノベーション演習	1・2・3	2			
		長期インターンシップ	1・2・3	2			
		事業創造概論	1・2・3	1			
研究共通科目		生命科学研究計画法	1	2	6単位以上		
		海外学術研究	1・2・3	2			
		生命科学キャリアデザイン開発	1	2			
		生物・生命系長期インターンシップ	1・2・3	2			
		プログラム共同セミナーB	1・2・3	2			
プログラム専門科目		生物圏多文化セミナーB	1・2・3	2			

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 3:3年次に履修, 1～3:1年次から3年次で履修, 1・2・3:履修年次を問わない
 ※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は、別途履修表を参照すること

生命環境総合科学プログラム (博士課程後期)

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数	履修方法及び修了要件		
必修科目	プログラム専門科目	統合生命総合科学演習		1・2・3	2	14単位	○履修方法 1 必修科目 プログラム専門科目 14単位	
		統合生命科学特別研究		1～3	12			
選択必修科目	持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGsアイディアマイニング学生セミナー		1・2・3	1	1単位以上	2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目 4単位以上	
		SDGsの観点から見た地域開発セミナー		1・2・3	1			
		普遍的平和を目指して		1・2・3	1			
		原爆文学、戦争文学と平和-被爆者と強制収容所囚人の経験記をもとに-		1・2・3	1			
	大学院共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス		1・2・3	2	1単位以上	○修了要件 1 必修科目 14単位 選択必修科目 6単位以上 合計 20単位以上 2 研究指導 3 博士論文 博士論文の審査及び最終試験に合格すること
			パターン認識と機械学習		1・2・3	2		
			データサイエンティスト養成		1・2・3	1		
			医療情報リテラシー活用		1・2・3	1		
			リーダーシップ手法		1・2・3	1		
			キャリアマネジメントセミナー		1・2・3	1		
			イノベーション演習		1・2・3	2		
			長期インターンシップ		1・2・3	2		
			事業創造概論		1・2・3	1		
	研究共通科目		生命科学研究計画法		1	2	4単位以上	
			海外学術研究		1・2・3	2		
			生命科学キャリアデザイン開発		1	2		
			生物・生命系長期インターンシップ		1・2・3	2		
			プログラム共同セミナーB		1・2・3	2		

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 3:3年次に履修, 1～3:1年次から3年次で履修, 1・2・3:履修年次を問わない
 ※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は, 別途履修表を参照すること

基礎生物学プログラム （博士課程後期）

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数	履修方法及び修了要件	
必修科目	プログラム専門科目	先端基礎生物学研究演習 E		1・2	1	14単位	○履修方法 1 必修科目 プログラム専門科目 14単位 2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目 4単位以上 ○修了要件 1 必修科目 14単位 選択必須科目 6単位以上 合計 20単位以上 2 研究指導 3 博士論文 博士論文の審査及び最終試験に合格すること
		先端基礎生物学研究演習 F		1・2	1		
		統合生命科学特別研究		1～3	12		
選択必修科目	持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGsアイディアマイニング学生セミナー		1・2・3	1	1単位以上	
		SDGsの観点から見た地域開発セミナー		1・2・3	1		
		普遍的平和を目指して		1・2・3	1		
		原爆文学、戦争文学と平和-被爆者と強制収容所囚人の経験記をもとに-		1・2・3	1		
	大学院共通科目	データサイエンス		1・2・3	2	1単位以上	
		パターン認識と機械学習		1・2・3	2		
		データサイエンティスト養成		1・2・3	1		
		医療情報リテラシー活用		1・2・3	1		
		リーダーシップ手法		1・2・3	1		
		キャリアマネジメントセミナー		1・2・3	1		
		イノベーション演習		1・2・3	2		
		長期インターンシップ		1・2・3	2		
		事業創造概論		1・2・3	1		
	研究共通科目	生命科学研究計画法		1	2	4単位以上	
		海外学術研究		1・2・3	2		
		生命科学キャリアデザイン開発		1	2		
		生物・生命系長期インターンシップ		1・2・3	2		
		プログラム共同セミナー B		1・2・3	2		

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 3:3年次に履修, 1～3:1年次から3年次で履修, 1・2・3:履修年次を問わない
※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は, 別途履修表を参照すること

数理生命科学プログラム (博士課程後期)

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数	履修方法及び修了要件	
必修科目	プログラム専門科目		統合生命科学特別研究	1～3	12	12単位	○履修方法 1 必修科目 プログラム専門科目 12単位
	選択必修科目	持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGsアイディアマイニング学生セミナー	1・2・3	1	1単位以上	2 選択必修科目 大学院共通科目 1単位以上 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目 4単位以上 プログラム専門科目 2単位以上
SDGsの観点から見た地域開発セミナー			1・2・3	1			
普遍的平和を目指して			1・2・3	1			
原爆文学、戦争文学と平和-被爆者と強制収容所囚人の経験記をもとに-			1・2・3	1			
大学院共通科目		キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス	1・2・3	2	1単位以上	○修了要件 1 必修科目 12単位 選択必修科目 8単位以上 合 計 20単位以上 2 研究指導 3 博士論文 博士論文の審査及び最終試験に合格すること
			パターン認識と機械学習	1・2・3	2		
			データサイエンティスト養成	1・2・3	1		
			医療情報リテラシー活用	1・2・3	1		
			リーダーシップ手法	1・2・3	1		
			キャリアマネジメントセミナー	1・2・3	1		
			イノベーション演習	1・2・3	2		
			長期インターンシップ	1・2・3	2		
			事業創造概論	1・2・3	1		
研究共通科目			生命科学研究計画法	1	2	4単位以上	
			海外学術研究	1・2・3	2		
			生命科学キャリアデザイン開発	1	2		
			生物・生命系長期インターンシップ	1・2・3	2		
			プログラム共同セミナーB	1・2・3	2		
プログラム専門科目			数理生命科学特別講義E	1・2・3	1	2単位以上	
			数理生命科学特別講義F	1・2・3	1		
	数理生命科学特別講義G		1・2・3	1			
	数理生命科学特別講義H		1・2・3	1			

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 3:3年次に履修, 1～3:1年次から3年次で履修, 1・2・3:履修年次を問わない
 ※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は, 別途履修表を参照すること

生命医科学プログラム (博士課程後期)

科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数	履修方法及び修了要件		
必修科目	プログラム専門科目	生命医科学セミナーC (注)		1	1	13単位	○履修方法 1 必修科目 プログラム専門科目 13単位	
		統合生命科学特別研究		1～3	12			
選択必修科目	持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGsアイディアマイニング学生セミナー		1・2・3	1	1単位以上	2 選択必修科目 大学院共通科目 持続可能な発展科目 1単位以上 キャリア開発・データリテラシー科目 1単位以上 研究科共通科目 4単位以上	
		SDGsの観点から見た地域開発セミナー		1・2・3	1			
		普遍的平和を目指して		1・2・3	1			
		原爆文学、戦争文学と平和-被爆者と強制収容所囚人の経験記をもとに-		1・2・3	1			
	大学院共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス		1・2・3	2	1単位以上	○修了要件 1 必修科目 13単位 選択必修科目 6単位以上 選択科目 1単位以上 合 計 20単位以上 2 研究指導 3 博士論文 博士論文の審査及び最終試験に合格すること
			パターン認識と機械学習		1・2・3	2		
			データサイエンティスト養成		1・2・3	1		
			医療情報リテラシー活用		1・2・3	1		
			リーダーシップ手法		1・2・3	1		
			キャリアマネジメントセミナー		1・2・3	1		
			イノベーション演習		1・2・3	2		
			長期インターンシップ		1・2・3	2		
			事業創造概論		1・2・3	1		
	研究共通科目		生命科学研究計画法		1	2	4単位以上	
			海外学術研究		1・2・3	2		
			生命科学キャリアデザイン開発		1	2		
			生物・生命系長期インターンシップ		1・2・3	2		
			プログラム共同セミナーB		1・2・3	2		
自由科目	プログラム専門科目	生命医科学セミナーD (注)		2	1			
		生命医科学セミナーE (注)		3	1			

※配当年次の記載 1:1年次に履修, 2:2年次に履修, 3:3年次に履修, 1～3:1年次から3年次で履修, 1・2・3:履修年次を問わない

※国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの対象者は、別途履修表を参照すること

(注)生命医科学セミナーC, D, Eは同じ年次で履修できない。ただし、早期修了を希望する場合は、同じ年次での履修を可とする。履修登録に先立ち、理学系支援室(もしくは学務委員)に相談すること。

1 2. 履修上の注意（博士課程後期）

(1) 海外学術研究

内 容 等：目的に沿った海外学術研究を実施した場合に，申請することができる。

(目的)

国際的リーダーとして，生物系研究領域における先端融合研究を遂行できる人材の育成を目的として，学生を海外の関連研究室に派遣する。実際に協働して研究を遂行するとともに，教員・学生との議論やゼミでの口頭発表などの機会を通じ，生物学・生命科学の専門領域での研究活動に必要な英語でのコミュニケーション能力の向上，そして広い視野から見た自身の研究の推進に関わる国際的ネットワークの重要性に対する理解を深める。

評 価：単位認定申請書受理後，一般学生も聴講可とした英語での報告会を開催し，現地での研究活動を報告させ，その内容に基づき成績を評価する。

提出書類等：

1. 単位認定申請書(学生便覧 60 頁)
2. 海外学術研究報告書
3. 研究実施海外研究先からの評価書
4. その他参考となるもの

実施手順：

1. 主指導教員と相談の上，海外学術研究を実施する受入れ機関を決定する。このとき，相手機間と受入れに関する条件を事前に十分把握しておく必要がある。
2. 正規の授業などに差し障りのない範囲で実施する。実施期間は原則 2 週間以上とする。
3. 受入れ機関から評価書の交付を受け，海外学術研究の目的，日程，目的達成度，得られた成果，今後の課題を記載した報告書とともに提出する。

(2) 生物・生命系長期インターンシップ

内 容 等：目的に沿ったインターンシップを実施した場合に，申請することができる。

(目的)

学生各々が実施している専門領域研究と実社会との関連を意識させ，持続可能な社会構築できる研究者，高度職業人となるためには，生物学・生命科学の専門研究が実社会の中で如何に研究され，社会実装に向けた開発が行われているかを理解することが重要である。そこで，国内外の学術機関及び企業などで長期インターンシップを行い，仕事としての研究の進め方，社会人・企業人との議論を通じたコミュニケーション能力の向上と，職業人としての社会性の涵養を図る。

評 価：単位認定申請書受理後，評価委員の陪席のもと一般学生も聴講可としたインターンシップ報告会を開催し，活動状況を報告させ，その内容に基づき成績を評価する。

提出書類等：

1. 単位認定申請書(学生便覧 60 頁)
2. インターンシップ報告書
3. インターン先での評価
4. その他参考となるもの

実施手順：

1. 主指導教員と相談の上，インターンシップを実施する受入れ機関を決定する。このとき，受入れに関する条件を事前に十分把握しておく必要がある。
2. 正規の授業などに差し障りのない範囲で実施する。実施期間は原則 2 週間以上とする。
3. 受入れ先から評価書の交付を受け，インターンシップの目的，日程，目的達成度，得られた成果，今後の課題を記載した報告書とともに提出する。

(3) プログラム共同セミナーBについて

プログラム共同セミナーは、統合生命科学研究科の科目であり、博士課程後期の学生はプログラム共同セミナーBを履修します。

プログラム共同セミナーの履修については、下記の「統合生命科学研究科プログラム共同セミナー実施要領」を参考にしてください。その他、聴講にあたっては、指導教員の指示、各セミナーのガイダンスに従ってください。

統合生命科学研究科プログラム共同セミナー実施要領

- ① プログラム共同セミナーは、各プログラムで企画・実施する。
学生は、7プログラムが実施するプログラム共同セミナーを少なくとも、それぞれ1回以上聴講することが望ましい。
- ② プログラム共同セミナーの実施日時等は、掲示や研究科のホームページ等にて案内する。
- ③ プログラム共同セミナーを聴講した学生は、聴講後、聴講届にスタンプを受け、プログラム共同セミナー聴講届を15回分以上まとめて単位認定申請書(学生便覧 61頁)と共に指導教員へ提出する。
- ④ 15回以上のセミナーの聴講をもって単位認定(2単位)資格とする。
- ⑤ プログラム共同セミナーの認定は、学務委員会が行う。
- ⑥ 学会等での講演会(研究科細則第10条による教育方法の特例を適用されるものについては、企業内の講演会・セミナーを含む。)の聴講をもってプログラム共同セミナーに替えることができる。

この場合、学会等での講演会が通常のプログラム共同セミナーの何回分に相当するかについては、指導教員の判断に委ねるが、学生はその回数に相当する受講報告を提出しなければならない。

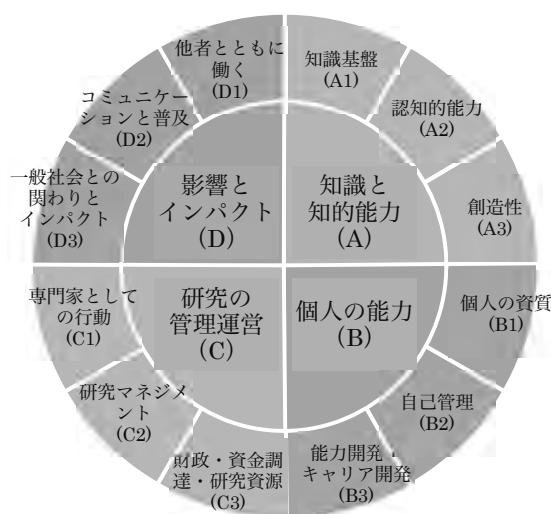
13. グローバルキャリアデザインセンター提供プログラム (HIRAKU 実践プログラム)

グローバルキャリアデザインセンターでは、研究キャリアの初期段階にある博士課程後期学生(D)及び若手研究者(PD)を対象に、新分野に挑戦する活力のある研究人材の育成を目的としたプログラム(HIRAKU 実践プログラム)を提供しています。

このプログラムでは、若手研究者が社会の多方面で活躍できる素養を身につけるため、グローバルキャリアデザインセンターが担当する大学院共通科目や各研究科が開設する科目や独自セミナー等を用意しています。

本センターが提供する「未来を拓く地方協奏プラットフォーム(HIRAKU)」の基幹 IT システムである若手研究者ポートフォリオ HIRAKU-PF(*)を利用して、研究人材としての能力(右図のドメイン(A)～(D))を自己チェックし、必要な能力領域の科目等を受講することで、自身の能力向上を図ることができます。

また、グローバルキャリアデザインセンターでは、若手研究者のキャリア形成に必要な指導・助言を受けることができる体制も整えていますので、併せて活用してください。 (*) https://hiraku.hiroshima-u.ac.jp/younger_platform/



Vitae ©2016 Careers Research Advisory Centre (CRAC) Limited.

<グローバルキャリアデザインセンター担当の大学院共通科目> ※はセミナー・イベント

科目区分	科目名等	能力領域
キャリア開発・データリテラシー科目 (博士課程後期対象)	イノベーション演習	ドメイン(A)
	データサイエンティスト養成	ドメイン(B)
	キャリアマネジメントセミナー	
	長期インターンシップ	ドメイン(D)
	リーダーシップ手法	
	※未来博士3分間コンペティション	
キャリア開発・データリテラシー科目 (博士課程前期対象)	キャリアマネジメント特論	ドメイン(B)
	ストレスマネジメント	

<上記以外の奨励科目> ※はセミナー・イベント

開設研究科等	科目名等	能力領域
ライティングセンター	学術文章の書き方とその指導法-大学教員を目指して-	ドメイン(D)
教育学習支援センター	大学教員養成講座基礎	
先進理工系科学研究科	Developing Designing Ability	
	技術移転論	
	技術戦略論	
	知的財産及び財務・会計論	
	MOTとベンチャービジネス論	
	※ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム(2025年12月開催予定)	
統合生命科学研究科	プロテオミクス実験法・同実習	

【グローバルキャリアデザインセンター提供プログラムについての問合せ先】
 広島大学グローバルキャリアデザインセンター(若手研究人材養成担当)
 Tel: 082-424-2058 E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp
 URL: https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr/

14. 学位規則（研究科内規）

○広島大学学位規則統合生命科学研究科内規

平成31年4月1日
研究科長決裁

目次

- 第1章 総則(第1条)
- 第2章 大学院統合生命科学研究科博士課程後期修了認定のために行う学位審査
(第2条－第7条)
- 第3章 学位論文提出による学位審査(第8条－第14条)
- 第4章 雑則(第15条・第16条)
- 附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この内規は、広島大学学位規則(平成16年4月1日規則第8号。以下「規則」という。)第17条の規定に基づき、広島大学大学院統合生命科学研究科(以下「本研究科」という。)の学位の授与に関し必要な事項を定めるものとする。

第2章 大学院統合生命科学研究科博士課程後期修了認定のために行う学位審査
(論文提出の資格要件及び時期)

第2条 規則第2条第2項の規定により学位論文(以下「論文」という。)を提出することができる者は、広島大学大学院統合生命科学研究科細則(平成31年4月1日研究科長決裁)第15条に規定する単位(以下「所定の単位」という。)を修得した者又は論文を提出する日の属する学期末までに所定の単位を修得する見込みが確実な者で、かつ、論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)を受けたものとする。

2 論文の提出の時期は、3月末修了予定者にあつては修了予定年度の1月、9月末修了予定者にあつては修了予定年度の7月の本研究科が指定する期日までとする。ただし、3年を超えて在学する者にあつては、随時学位申請手続を行うことができる。

(学位論文提出の手続)

第3条 前条第1項の規定に該当する者が論文を提出する場合は、次に掲げる書類を主指導教員の承認を得て、研究科長に提出するものとする。

- (1) 学位論文審査願 1通
- (2) 論文 1通
- (3) 論文目録 1通
- (4) 論文の要旨 1通
- (5) 履歴書 1通
- (6) 参考論文のあるときは、参考論文 1通

(論文の受理)

第4条 研究科長は、前条の規定により論文の提出があつたときは、広島大学大学院統合生命科学研究科教授会(以下「教授会」という。)に受理すべきか否かを諮るものとする。

(審査委員会)

第5条 研究科長は、前条の規定により論文の受理を決定したときは、当該論文を教授会に付議するものとする。

2 教授会は、前項の付議に基づき、直ちに審査委員会を設けるものとする。

3 審査委員会は、学位論文の内容に関係の深い専門分野の広島大学(以下「本学」という。)の教員3人以上の審査委員をもって組織する。ただし、教授会において必要と認めたときは、本学の教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

4 審査委員会に主査を置き、本研究科の教員をもって充てる。

(論文審査会)

第6条 審査委員会は、公開の論文審査会を開催するものとする。

(学位授与の期日)

第7条 論文審査及び最終試験に合格した者の博士の学位授与の期日は、次のとおりとする。

(1) 標準修業年限内に合格した者 学位記授与式が举行される日

ただし、教授会の議を経て研究科長が、特別な事由があると認めた場合には合格した日とすることができる。

(2) その他の者 合格した日

第3章 論文提出による学位審査

(学位授与の申請をすることができる者の資格要件)

第8条 規則第2条第3項の規定に基づき、論文提出による博士の学位の授与を申請することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 本研究科博士課程後期に3年以上在学して所定の単位を修得し、かつ、研究指導を受けた後退学した者

(2) 博士課程前期又は修士課程の修了者で、4年以上の研究歴を有するもの

(3) 大学の卒業者で、6年以上の研究歴を有するもの

(4) 前3号に掲げる者以外の者で、教授会が優れた研究業績を上げたと認めるもの

(論文提出の手続)

第9条 前条各号のいずれかに該当する者が論文を提出する場合は、次に掲げる書類を研究科長を経て学長に提出するものとする。

(1) 学位申請書 1通

(2) 論文 1通

(3) 論文目録 1通

(4) 論文の要旨 1通

(5) 履歴書 1通

(6) 参考論文のあるときは、参考論文 1通

(7) 最終学校の卒業証明書（大学院修了証明書） 1通

(8) 研究期間を証する主指導教員又はこれに準ずる者の証明書 1通

2 前項の規定にかかわらず、本学の卒業者又は本研究科の修了者でその研究歴が本学に限られるものについては、前項第7号及び第8号に規定する書類は必要としない。

(論文の受理)

第10条 論文の受理については、第4条の規定を準用する。

(審査委員会及び試問委員会)

第11条 審査委員会については、第5条の規定を準用する。

2 試問委員会は、学位論文の内容に関係の深い専門分野の本学の教員3人以上の試問委員をもって組織する。ただし、教授会において必要と認めたときは、本学の教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を試問委員に加えることができる。

3 試問委員会に主査を置き、本研究科の教員をもって充てる。

(試験又は試問の内容及び適用年限)

第12条 規則第6条第3項の試問に課する外国語は、本研究科においては1種類とする。

2 規則第6条第4項の所定の年限は、本研究科においては3年とする。

第13条 論文審査及び試問又は試験に合格した者の博士の学位授与の期日は、合格した日とする。

(論文審査会)

第14条 審査委員会は、公開の論文審査会を開催するものとする。

第4章 雑則

(書類の様式)

第15条 関係書類の様式は、別記第1号様式から別記第7号様式までのとおりとする。

(その他)

第16条 この内規に定めるもののほか、学位の授与に関し必要な事項は、教授会の議を経て定める。

附 則

この内規は、平成31年4月1日から施行する。

(略)

附 則(令和7年3月25日 一部改正)

この内規は、令和7年4月1日から施行する。

15. 博士論文等作成から提出までの日程及び手続きについて

●印の項目は学位授与申請者が手続等を行う事項 ○印の項目は教員が行う事項

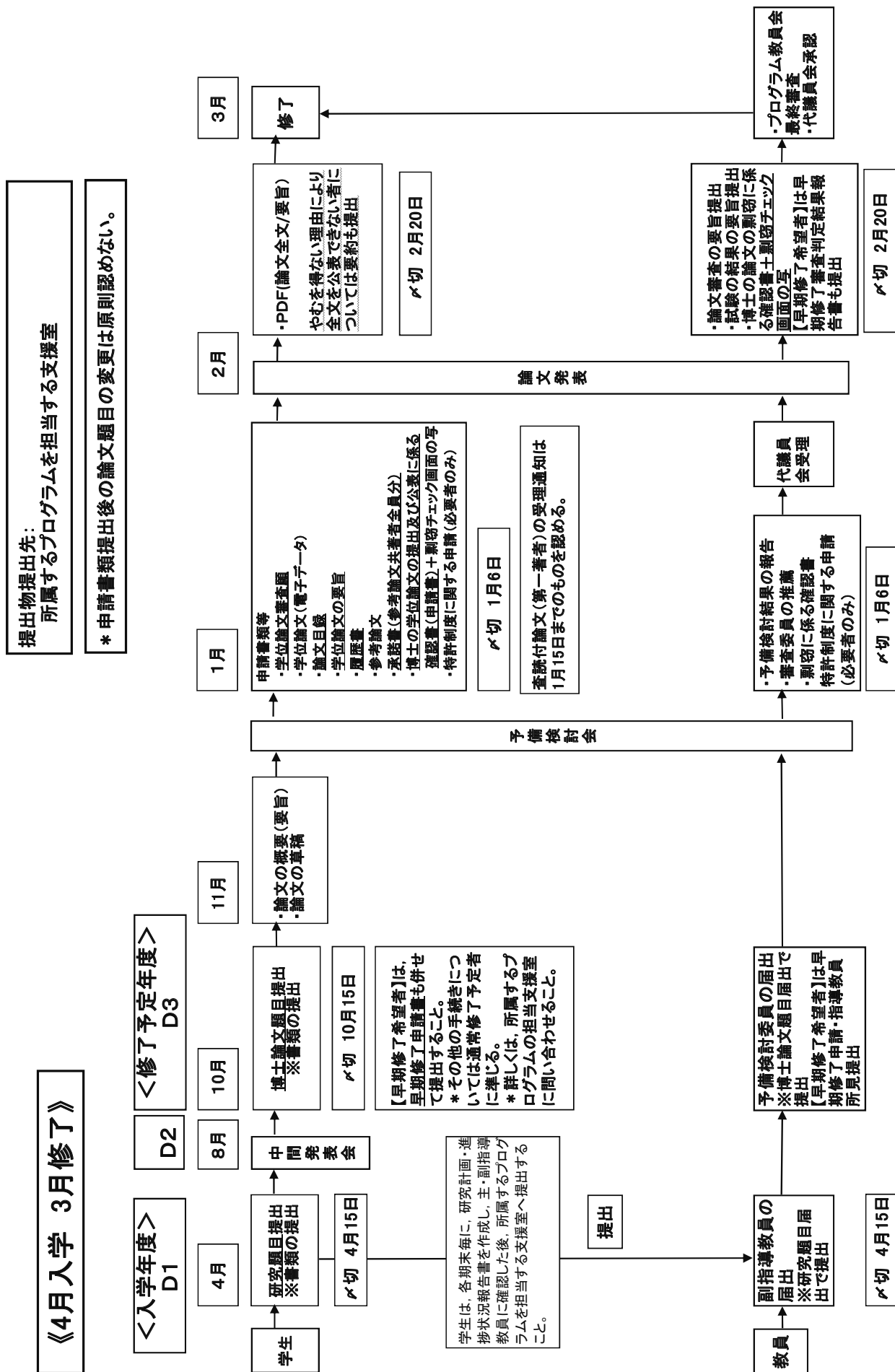
※ 提出期限等は、年度によって変更する場合がありますので、事前に研究科HP及び掲示等(Mvもみじの掲示含む)で必ず確認すること。

項 目	提出先等	提出期限等		備 考
		3月授与	9月授与	
●博士論文中間発表会		8月頃 (2年次)	8月頃 (2年次)	日程等別途通知
●論文題目届提出 (主指導教員と相談し作成すること。)	所属するプログラムの担当支援室等	10月15日	4月15日	早期修了希望者は、早期修了申請書も併せて提出すること。
●論文の概要提出 ●論文の草稿提出	メール提出 所属するプログラムの担当支援室等	11月20日	5月20日	
○予備検討の実施 (オンラインでも可) ○予備検討結果報告書の提出	所属するプログラムの担当支援室等	1月6日	7月6日	
●申請書類等提出 学位論文審査願 1 通 学位論文 1 通 論文目録 1 通 学位論文の要旨 1 通 履歴書 1 通 参考論文 1 通 承諾書 (参考論文共著者全員分) 各 1 通 博士の学位論文の提出及び公表に係る確認書 (申請書) 各 1 通 + 剽窃チェック画面の写 (予備検討委員)	所属するプログラムの担当支援室 (大学院課程担当等)	1月6日 (参考論文 (投稿論文) は1月15日までに受理されている事※ 1)	7月6日 (参考論文 (投稿論文) は7月15日までに受理されている事※ 1)	※参考論文 (学位要件論文) には、審査を受ける申請者は審査制度のある学術誌に申請者が第一著者として発表した論文が一編以上含まなければならない。
○審査委員の推薦 (本学所属教員 (教育資格 I) 3 名以上)	所属するプログラムの担当支援室等	1月6日	7月6日	
論文の受理 審査委員の承認	研究科代議員会	1月中旬	7月中旬	
●論文発表会 (オンラインでも可)		研究科代議員会承認後		日程等別途調整
●論文等の電子データ (PDF) 提出 (学位論文, 要旨, (要約))	所属するプログラムの担当支援室等	2月20日	8月20日	
○最終審査資料の提出 論文審査の要旨 1 通 試験の結果の要旨 1 通 博士の学位論文の剽窃に係る確認書 + 剽窃チェック画面の写し (審査委員) 各 1 通	所属するプログラムの担当支援室等	2月20日	8月20日	
最終審査	研究科代議員会	3月上旬	9月上旬	

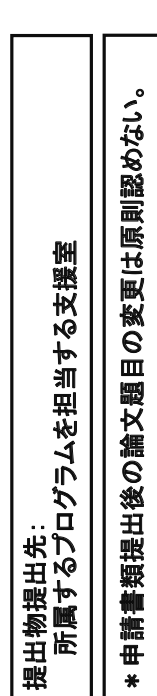
- 注) 1. ここに定める期限は、当該期日の午後5時とする。
ただし、期限日が土曜日又は国民の祝日に関する法律に規定する休日に当たるときはその前日とし、日曜日にあたるときは前々日とする。
2. 提出期限等については、変更することがある。
3. 早期修了予定者は、早期修了申請書を博士論文題目と共に提出する。
4. 各期末毎に、研究計画・進捗状況報告書を作成し、主・副指導教員へ確認し、所属するプログラムを担当する支援室へ提出すること。

博士論文の手続きについて

※下線の書類の様式はHPからダウンロードできます。



※下線の書類の様式はHPからダウンロードできます。



様式集（博士）

研究題目届(D)

Notification of the Research Title

Year Month Date
年 月 日 提出

学 生 番 号 Student ID Number	D	ふりがな 氏 名 Katakana Name	
プログラム名 Program	☐ 生物工学 Biotechnology ☐ 食品生命科学 Food and AgriLife Science ☐ 生物資源科学 Bioresource Science ☐ 生命環境総合科学 Life and Environmental Sciences ☐ 基礎生物学 Basic Biology ☐ 数理生命科学 Mathematical and Life Sciences ☐ 生命医科学 Biomedical Science		
研 究 題 目 (外国語の場合は、 和訳を付すこと。) Research Title (Japanese Title)			

<以下は主指導教員が記入> The followings are written by supervisor.

指 導 教 員 氏 名			
主指導教員 氏 名	確認印 又は サイン <table border="1"> <tr> <td>研究指導計画を策定し 副指導教員と共有して 学生に明示</td> <td>☐</td> </tr> </table>	研究指導計画を策定し 副指導教員と共有して 学生に明示	☐
研究指導計画を策定し 副指導教員と共有して 学生に明示	☐		
副指導教員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]		
副指導教員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]		
副指導教員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]		
副指導教員 所属プログラム	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]		

指導教員は、本学の教授、准教授又は講師を2名以上含めること。

副指導教員は、所属プログラムを担当する教員1名以上と、所属プログラムと異なるプログラムを担当する教員を1名以上含むこと。他研究科・他大学所属の場合は、所属・職名を明記すること。

指導教員に、博士課程後期学生募集要項の主指導教員一覧表に記載されている教員が3名以上含まれない場合は、プログラム長の所見を要する(任意様式)。

研究指導計画書は、依頼があれば直ちに提出すること。

提出先：所属するプログラムを担当する支援室(大学院課程担当等)

提出〆切：4月入学の場合／4月15日、10月入学の場合／10月15日

単位認定申請書
Application for Recognition of Credits

年 月 日
Date: (Year) (Month) (Day)

大学院統合生命科学研究科長 殿
To: The Dean of the Graduate School of Integrated Sciences for Life

統合生命科学研究科 プログラム
Graduate School of Integrated Sciences for Life
Program of
学生番号
Student Number
氏 名
Name

認定科目の単位等の認定を受けたいので、報告書等を添付のうえ、申請します。
I hereby apply for the recognition of the credits for designated courses, with reports or other required documents attached hereto.

該当科目に○ Put a circle in the appropriate box.	認 定 科 目 Course	備 考 Remarks
	海外学術活動演習 Exercises in International Academic Studies	博士課程前期 Master's Course
	海外学術研究 Academic Research Overseas	博士課程後期 Doctoral Course
	生物・生命系長期インターンシップ Long-term Internship	〃

主指導教員氏名 Name of Academic Supervisor	Seal or Signature		
〈単位認定にあたっての意見〉 (Comments regarding certification of credits)			
主指導教員評価 Evaluation by Academic Supervisor	秀 優 良 可 Excellent, Very Good, Good, Fair	学務委員会認定 Certification of Academic Affairs Committee	

プログラム共同セミナー単位認定申請書
Application for Recognition of Credit for "Science Seminar"

年 月 日
Date: (Year) (Month) (Day)

大学院統合生命科学研究科長 殿
To: The Dean of the Graduate School of Integrated Sciences for Life

統合生命科学研究科
Graduate School of Integrated Sciences for Life
Program of
学生番号 / Student ID
氏 名 / Name

プログラム
Seal or Signature

プログラム共同セミナーの単位認定を受けたいので、聴講届を添付のうえ、申請します。
I hereby apply for the recognition of the credits for Science Seminar, with Participation Certificate or other required documents attached hereto.

回数 Number	日付(年月日) Date (YY/MM/DD)	講師名 Lecturer's Name	世話プログラム Facilitated Program (適切な番号に○をつける。Put a circle appropriate number.)
1			1・2・3・4・5・6・7・8
2			1・2・3・4・5・6・7・8
3			1・2・3・4・5・6・7・8
4			1・2・3・4・5・6・7・8
5			1・2・3・4・5・6・7・8
6			1・2・3・4・5・6・7・8
7			1・2・3・4・5・6・7・8
8			1・2・3・4・5・6・7・8
9			1・2・3・4・5・6・7・8
10			1・2・3・4・5・6・7・8
11			1・2・3・4・5・6・7・8
12			1・2・3・4・5・6・7・8
13			1・2・3・4・5・6・7・8
14			1・2・3・4・5・6・7・8
15			1・2・3・4・5・6・7・8

1:生物工学(Biotechnology), 2:食品生命科学(Food and AgriLife Science), 3:生物資源(Bioresource Science), 4:生命環境総合科学(Life and Environmental Sciences), 5:基礎生物学(Basic Biology), 6:数理生命科学(Mathematical and Life Sciences), 7:生命医科学(Biomedical Science), 8:その他(Others)

注意: 1～7のセミナーは最低一つずつ含んでいることが望ましい。

Note: at least one seminar from each program (1-7) is required.

主指導教員氏名 Name of Academic Supervisor	学務委員会認定 Certification of Academic Affairs Committee
Seal or Signature	

博士論文題目届 Notification of the Doctoral Thesis Title

Year Month Date
年 月 日 提出

学 生 番 号 Student ID Number	D	ふりがな 氏 名 Katakana Name	
プログラム名 Program		希望する学位の種類 Tentative Degree Name	
☐ 生物工学 Biotechnology		☐ 博士（工学） Doctor of Philosophy in Engineering	☐ 博士（学術） Doctor of Philosophy
		☐ 博士（理学） Doctor of Philosophy in Science	
☐ 食品生命科学 Food and AgriLife Science ☐ 生物資源科学 Bioresource Science ☐ 生命環境総合科学 Life and Environmental Sciences		☐ 博士（農学） Doctor of Philosophy in Agriculture	
☐ 基礎生物学 Basic Biology ☐ 数理生命科学 Mathematical and Life Sciences ☐ 生命医科学 Biomedical Science		☐ 博士（理学） Doctor of Philosophy in Science	
日本語題目 Japanese Title			
英語題目 English Title			
執筆言語 Language	☐ 日本語 Japanese ☐ 英語 English		

<以下は主指導教員が記入> The followings are written by supervisor.

予 備 検 討 委 員	
主指導教員 氏 名	確認印 又は サイン
主 査	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]
委 員	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]
委 員	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]
委 員	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]
委 員	[教授・准教授・講師・助教] [生工・食生・生資・生環・基生・数生・生医・他研・他大()]

注) 予備検討委員は審査委員会が本学の教員（※教育資格 I）3 人以上の審査委員をもって組織することを考慮のうえ、推薦してください。

提出〆切は（9月修了の場合：4月15日、3月修了の場合：10月15日）

年 月 日

広島大学大学院統合生命科学研究科長 殿

学 生 番 号

プ ロ グ ラ ム

氏 名

印／サイン

早 期 修 了 申 請 書

広島大学大学院規則第44条に基づき、博士課程後期早期修了の認定を申請いたします。

早期修了希望時期

年 月

早期修了申請・指導教員所見

年 月 日

学生番号	D	ふりがな 氏 名	
プログラム			
早期修了 希望時期	年 月 希望	指導教員	印／サイン

別記第1号様式

Attached Form 1

年 月 日
Date: (Year) (Month) (Day)

広島大学大学院統合生命科学研究科長 殿
To: Dean of Graduate School of Integrated Sciences for Life
Hiroshima University

年 月 日 入学・進学
Enrollment Date: (Year) (Month) (Day)

広島大学大学院統合生命科学研究科
Graduate School of Integrated Sciences for Life,
Hiroshima University

博士課程後期 プログラム
Doctoral Course Program

氏 名 (自署)
Name (Signature)

学位論文審査願
Application for Review of Dissertation

広島大学大学院統合生命科学研究科博士課程後期修了の認定を受けるため、広島大学学位規則第4条第1項の規定に基づき、下記関係書類を提出いたしますから、審査くださるようお願いいたします。

In order to receive approval for completion of the doctoral course of the Graduate School of Integrated Sciences for Life, Hiroshima University, I submit the related documents listed below for review based on the provisions of Article 4 (1) of the Hiroshima University Degree Regulations.

記

論 文 Dissertation	1通 1 copy
論 文 目 録 List of Publications	1通 1 copy
論 文 の 要 旨 Summary of Dissertation	1通 1 copy
履 歴 書 Resume	1通 1 copy

別記第3号様式

論 文 目 録	
氏 名	(自署)
学 位 論 文	
公 表 の 方 法	
参 考 論 文 (学位要件論文)	
関 係 論 文	

備考

- 1 学位論文及び参考論文については、論文題目、公表の方法、公表年月日及び冊数を記載すること。
- 2 論文題目が和文の場合は英文を（ ）内に、論文題目が英文の場合は和文を（ ）内に併記すること。
- 3 参考論文が2編以上ある場合は、列記すること。
- 4 引用している特許及び特許出願が公開されているものは、関係論文に記載することができる。
- 5 用紙の規格はA4とし、縦にして左横書とすること。

<記載要領>

論 文 目 録

氏 名 (自署)

学 位 論 文 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
(*****)

(注) 和文のときは英訳を, 英文のときは和訳を()内に併記すること。

公表の方法 広島大学学術情報リポジトリに学位論文の全文及び論文の要旨を公表するほか,
次のとおり公表する。

第2章 参考論文の1
第4章 参考論文の2

参 考 論 文 (学位要件論文) (注1)

関 係 論 文 (注2)

<記載例>

- 1 著者名, 題目, 雑誌名, 巻(号), 頁(最初と最後の頁), 発行年
- 2 著者名, 題目, 雑誌名, (受理年月日)
- 3 著者名, 著書名, 題目, 頁, 出版社名, 発行年
- 4 特許権者名(または, 発明者名), 発明の名称, 特許番号 (注3)
- 5 特許出願者名(または, 発明者名), 発明の名称, 特許出願公開番号 (注3)

(注1) 参考論文とは, 学位論文提出者がすでに公表した(受理, 印刷中を含む)学術論文のうち, 内容が学位論文と直接関係あるもので学位申請要件となるものを示す。共著者がいる場合, 共著者が同じ内容で学位論文申請を行うことが無いよう, 「あなたの学位論文申請に使用することに同意する。」旨の書類を本学に提出する。

(注2) 関係論文とは, 内容が学位論文と関連があり, 申請者が著者(共著者を含む)の論文であるが, 参考論文(学位要件論文)ではないものを示す。記載しない場合は, 「関係論文」を削除すること。

(注3) 引用している特許及び特許出願が公開されているものは, 関係論文に記載することができる。

別記第4号様式

履 歴 書

ふ り が な
氏 名

生 年 月 日

本籍（都道府県名）

現 住 所

学 歴
年 月 日

職 歴
年 月 日

研 究 歴
年 月 日

賞 罰

上記のとおり相違ありません。

年 月 日

氏 名（自署）

備考

- 1 履歴事項は、高等学校卒業後の履歴について年次を追って記載すること。
- 2 本学大学院博士課程の教育課程を終えて退学した者は、単位修得証明書を添付すること。
- 3 用紙の規格はA4とし、縦にして左横書とすること。

承 諾 書

私は、下記の共著論文内容を ○ ○ ○ ○ 氏の学位論文に使用することを承諾します。

なお、当該学位論文を広島大学学術情報リポジトリへデータ登録し、インターネットにより無償で公開することについても、併せて承諾します。

記

1 著 者 名

2 題 目

3 発 表 誌 名

4 巻（号）・頁・年

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

氏 名（自署）

（注）用紙の規格は、A4判とする。

学 位 論 文 の 要 旨

論文題目

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

(注) 題目(副題を含む。)は、提出論文のとおり記載すること。

和文のときは英訳を、英文のときは和訳を()内に併記すること。

広島大学大学院統合生命科学研究科

統合生命科学専攻

プログラム

学生番号 D・・・・・

氏 名 ○ ○ ○ ○

(注) 論文の要旨は、A4判用紙を使用し、4000字以内とする。

なお、英文の場合は1500ワード以内とする。

博士の学位論文の提出及び公表に係る確認書（申請書）

広島大学が博士の学位を授与したときは、学位規則（昭和二十八年四月一日文部省令第九号）の第八条、第九条及び広島大学学位規則（平成16年4月1日規則第8号）の第13条及び第14条に基づき、広島大学学術情報リポジトリにおいて「学位論文の内容の要旨」、「学位論文審査の結果の要旨」及び「学位論文の全文」を公表します。

博士の学位論文を提出するにあたり、学位の申請及び広島大学学術情報リポジトリにおける公表について以下の項目を確認のうえ、必要事項を記入してください。

【広島大学学位規則（平成16年4月1日規則第8号）抜粋】

（学位論文要旨の公表）

第13条 本学が博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

（学位論文の公表）

第14条 本学において博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、学長は、その学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

4 前3項の規定により当該博士の学位の授与に係る論文を公表するときは、「広島大学審査学位論文」と明記しなければならない。

学位申請者氏名	
論文提出先研究科	
論文題目	

問い合わせ先：

① リポジトリ・著作権に関すること

広島大学図書館 図書学術情報企画グループ 学術情報企画担当

Tel：082-424-6228（内線 東広島 6228） Fax：082-424-6211（内線 東広島 6211）

E-Mail：tosho-kikaku-jyoho@office.hiroshima-u.ac.jp

広島大学学術情報リポジトリ（HiR）トップページ <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

② 確認書（申請書）・電子ファイル・学位論文審査に関すること

各支援室等学生支援担当

③ 特許等に関すること

指導教員 または 広島大学学術・社会連携室 知的財産部

Tel：082-424-5597 Fax：082-424-6133

E-Mail：chizai@hiroshima-u.ac.jp

※以下の項目は、事務で記入します。

学位記番号	甲 第 号	学位授与年月日	年 月 日
	乙		

1. 学位論文執筆に係る確認事項		
	☐	所定の研究倫理教育プログラムを受講し、研究倫理に関し必要な事項を理解したこと。
	☐	研究上の不正行為（捏造、改ざん、盗用等）を行っていないこと。
	☐	著作権の侵害行為を行っていないこと。（以下のア～エを満たす、適切な方法で引用を行っている。または、学位論文執筆に関して著作権者の許諾を得ている。） ア 既に公表されている著作物であること イ 「公正な慣行」に合致すること ・引用を行う「必然性」があること ・カギ括弧などにより「引用部分」が明確になっていること ウ 研究の引用の目的上「正当な範囲内」であること ・引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であること ・引用される分量が必要最小限の範囲内であること エ 「出所の明示」をすること
	☐	プライバシーを保護すべき研究対象者が存在しないこと。または、研究対象者のプライバシーが保護されていること。（対象者が研究対象となることを了解しており、公表方法等にも合意している。）
2. 学位論文申請に係る確認事項		
	☐	共著者がいる場合、共著者が同じ内容で学位論文申請を行うことが無いよう、「あなたの学位論文とすることに同意する。」旨の書類を本学に提出していること。または、単著論文であること。
	☐	「学位論文の全文」、「学位論文の要旨」の電子データを提出すること。また、広島大学学位規則第14条第2項における「やむを得ない事由」がある場合には、併せて「学位論文全文の要約」の電子データを提出すること。博士論文の電子データ形式は、PDF（PDF/A(ISO 19005)推奨）とする。
3. 広島大学学術情報リポジトリで公表することに係る確認事項		
＜注意事項＞ 1 本学では広島大学学術情報リポジトリ（以下「リポジトリ」という。）で論文の全文及び論文の要旨をインターネット公開することとしているため、本確認書（申請書）提出の際に、著作権のうち複製権・公衆送信権について許諾したこととなります。 2 リポジトリではデータの公開にあたり、データの複製（印刷・ダウンロード等）は、調査研究・教育または学習を目的としている場合に限定されることを明示します。 3 「学位論文の要旨」及び「論文審査の要旨」は学位授与日から3月以内に、「学位論文の全文」又は「学位論文全文の要約」は学位授与日から1年以内にリポジトリにおいて公表し、リポジトリトップページに「お知らせ」を掲載しますので、確認してください。		
	☐	学位論文全文の公表に際し、学位申請者自身が著作権等の権利関係を確認済みであること。
	☐	広島大学学位規則第14条第2項における「やむを得ない事由」（以下A～H）に該当しないこと。（該当がある場合はこの欄を空欄とし、以下の項目にチェックを入れること。）
	【広島大学学位規則第14条第2項における「やむを得ない事由」に該当する項目】（ない場合はチェック不要）	
	☐	A ☐ 立体形状による表現を含むなど事実上インターネットでの公表が不可能なものである。
	☐	B ☐ 学位論文における文章や図表・写真等について、著作権法第32条に定める引用ではなく、同法第63条に定める許諾によって利用した場合において、リポジトリでの公表が許諾に係る利用方法及び条件の範囲内に含まれていない。また、リポジトリでの公表について許諾が得られていない。
	☐	C ☐ 共著者のある場合で、リポジトリで公表することについて許諾が得られていない。
	☐	D ☐ 著作権を譲渡している場合で、著作権者（出版社や学会）に許諾が得られていない。
	☐	E ☐ 投稿・出版した（またはその予定がある）ものであつて、掲載誌・出版社の許諾が得られていない。
	☐	F ☐ 公表してはいけないような、対象者のプライバシーに関わる情報や秘匿の情報を含んでいる。
	☐	G ☐ 投稿・出版の予定があつて、全文の公表により申請者自身に明らかな不利益が生じる。
	☐	H ☐ 特許・実用新案等の出願の予定があつて、全文の公表により申請者自身に明らかな不利益が生じる。
	広島大学長 殿 上記の理由（詳細：_____）により、学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表したいので、申請します。 なお、上記の理由が解消された場合には、速やかに（提出先：_____）へ改めて本紙を提出し、論文の全文を公表します。 【公開予定日：20__年__月__日】（ ☐ 公開予定日は定まらない。）	
（事務で記入） やむを得ない事由の審議結果		
20__年__月__日 研究科教授会・代議員会 承認 ☐		
4. 申請者署名及び指導教員署名		
学位申請者署名（自署）		20__年__月__日
主指導教員署名（自署） （論文博士の場合、主査等署名）		20__年__月__日
【主指導教員によるチェック欄】 学位申請者の論文について、盗用・剽窃等がないことを確認しました。 ☐ ①剽窃チェックソフト「iThenticate」の使用 ②適切な方法で引用が行われていることの確認 ※「iThenticate」の確認結果の画面（類似率（%）が表示されている部分）のコピーを添付してください。（クリップ留め）		

記載いただく氏名等の情報は、学位関係業務にのみ使用します。